

保育社会福祉学科

1 年

授 業 科 目	日本国憲法			担 当 者	菊永 将浩		実務経験
履 修 方 法	講義	期 間	後期	学科・学年	保育1年	時 間 数 (単位数)	30 (2)

授業の目的・内容

日本国憲法の基本的な知識を知ることや法律の考え方を学ぶことを通じて、学生が憲法の大切さを理解するとともに法律を使って物事を考える力を身に付けることを目的とする。

到達目標

- ・これまであまり学んだことがない憲法や法律を学ぶことを通じて、将来仕事に就いた時などに人権を大切にしたい日々を送るとともに、法律を使った課題解決ができる力を身に付ける。

授業計画

【後期】

1. 日本国憲法とは
2. 表現の自由
3. 信教の自由
4. 学問の自由
5. 婚姻の自由と男女の平等
6. 勤労の自由、生存権
7. 子どもや外国人の人権
8. 天皇制の憲法上の位置づけ
9. 国会
10. 内閣
11. 裁判所
12. 地方自治
13. 憲法9条と平和主義
14. 新しい人権
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・あらかじめ教科書の指定する箇所を読んで授業に臨むこと
- ・随時ミニテストを行う

評価の方法・基準

- ・期末試験 (75%)、授業時の学習態度
- ・ミニテスト (25%)

教科書

- ・吉田成利『大学生のための日本国憲法入門』（慶應義塾大学出版会）
- ※参考文献 芦部信喜『憲法 第七版』（岩波書店）

備考

授 業 科 目	生涯スポーツ			担 当 者	馬明 真梨子		実務経験
履 修 方 法	実技	期 間	前期	学科・学年	保育1年	時 間 数 (単位数)	45 (1)

授業の目的・内容

スポーツを生活に取り入れることで健康で活力ある日々を送ることができる。本授業において、様々なスポーツを実践・体感し、生涯スポーツの理解を深める。

到達目標

- ・スポーツの楽しさ、大切さを説明できる。
- ・自分自身の健康と運動について考え、実施できるようになる。

授業計画

【前期】

1. 集団行動①
2. " ②
3. 球技（バレーボール・バドミントン・卓球 など）①
4. " ②
5. " ③
6. " ④
7. " ⑤
8. " ⑥
9. 筋力トレーニング、持久力トレーニング、体力測定 ①
10. " ②
11. " ③
12. " ④
13. " ⑤
14. " ⑥
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・スポーツの話題をテレビや自身の生活の中で見つける。

評価の方法・基準

- ・出席状況（60%）、授業態度・技術習得度（40%）とし、総合的に評価する。

教科書

- ・なし

備考

授 業 科 目	健康科学			担 当 者	馬明 真梨子		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数 (単位数)	15 (1)

授業の目的・内容

現代社会は健康を取り巻く情報が多様化しており、多くの人が情報に混乱している。生涯を通じ健康で活力ある生活を営むために、健康づくりの基礎的な知識を学び実践することが必要である。本授業において健康づくりの基礎を習得する。

到達目標

- ・健康とは何か、健康を取り巻く環境を説明できるようになる。
- ・健康施策を説明できる。
- ・健康と運動のつながりを説明することができる。

授業計画

【前期】

1. 健康の概念
2. 健康・体力と運動
3. 健康増進のための国、自治体の施策①
4. " ②
5. 体のしくみ① 運動と身体の機能
6. " ② トレーニング科学
7. " ③ 運動と食・健康のつながり
8. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・教科書を事前に読んでおく。
- ・日常の中で健康や運動の話題や取り組みを確認する。

評価の方法・基準

- ・筆記試験（60%）、提出物・出席状況・授業態度（40%）とし総合的に評価する。

教科書

- ・『生涯スポーツ・健康科学』（近畿大学九州短期大学）

備考

授 業 科 目	情報処理			担 当 者	松岡 伸吾		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数 (単 位 数)	6 0 (2)

授業の目的・内容

講義での演習を通じ、パソコンの基本的な仕組みの理解、効率的な業務を行うために必要なタッチタイピング等のパソコンの基本操作、使用頻度が高いワープロソフト、表計算ソフトの基本操作の習得を主な目的とする。また、プレゼンテーションソフトの演習を通じその基本操作方法も学ぶ。

到達目標

- ・日本語ワープロ検定試験 3 級以上の取得
(合格条件：①10 分間で 300 文字以上のタイピング能力、②20 分間で一般的な社外文章の作成能力)
- ・情報処理技能検定の 3 級以上の取得
(合格条件：30 分間で検定問題の 80 点以上の取得)

授業計画

【前期】

1. パソコンのしくみについて
2. マウスとキーボードの基本操作
3. ワープロソフトの基本操作
4. ワープロ検定の概要&練習①
5. " ②
6. ワープロ検定演習①
7. " ②
8. " ③
9. " ④
10. " ⑤
11. " ⑥
12. " ⑦
13. " ⑧
14. まとめ、ワープロ検定試験
15. 差し込み印刷、セキュリティ、情報モラル

【後期】

16. 表計算ソフトの基本操作①
17. " ②
18. 情報処理技能検定の概要&練習①
19. " ②
20. 情報処理技能検定練習①
21. " ②
22. " ③
23. " ④
24. " ⑤
25. " ⑥
26. " ⑦
27. " ⑧
28. まとめ、情報処理技能検定試験（表計算）
29. プレゼンテーションソフトの操作&作成①
30. " ②

事前・事後学習の内容

- ・タッチタイピングの自主練習
- ・テキストにおける表計算ソフト及びプレゼンテーションソフトの基本操作部分の予習
- ・講義中に行う演習課題の誤り箇所の修正

評価の方法・基準

- ・検定結果（80%）、出席・授業態度（20%）。ただし、講義中の演習課題を全て完成させ、提出していることが評価を出す条件とする。

教科書

- ・阿部正平・阿部和子・二宮祐子『保育者のためのパソコン講座』（萌分書林）

備考

授業科目	英会話			担当者	柳原 里枝子		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	保育1年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

日常生活で使える基本的な表現やフレーズを身につけ、会話を中心とした活動を通じて英語でのコミュニケーション能力を修得する。

到達目標

- ・基本的な語彙を英語で理解できる。
- ・英語での会話を聞いて内容が理解できる。
- ・英語で基本的な質問や応答ができる。

授業計画

【前期】

1. Introduction/SCENE 1: It's So Nice to Meet You! ①
2. SCENE 1: It's So Nice to Meet You! ②
3. SCENE 2: Is He a Popular Professor? ①
4. " ②
5. SCENE 3: He Showed Me "a" Way ①
6. " ②
7. SCENE 4: For Here or To Go? ①
8. " ②
9. SCENE 5: She Is So Beautiful ①
10. " ②
11. SCENE 6: Catching a Cab ①
12. " ②
13. SCENE 7: How Romantic! ①
14. " ②
15. Review / Mid-term Test

【後期】

16. Orientation /SCENE 8: I'm Not Feeling Well ①
17. SCENE 8: I'm Not Feeling Well ②
18. SCENE 9: Tickets for a Yankees Game ①
19. " ②
20. SCENE 10: What's on the Shopping List? ①
21. " ②
22. SCENE 11: MoMA Is Fun! ①
23. " ②
24. SCENE 12: The "Fourth of July" Is Coming Up ①
25. " ②
26. SCENE 13: Who Is That Guy?! ①
27. " ②
28. SCENE 14: You're My Best Friend ①
29. " ②
30. Review / Final Exam

事前・事後学習の内容

- ・単語や語句の意味調べ等の予習
- ・復習プリント

評価の方法・基準

- ・授業への積極的参加、出席状況、期末試験等で総合評価を行います。
(授業の参加状況 (20%)、宿題・提出物(20%)、学期末テスト (60%))

教科書

- ・『Hello New York! ~Learning Basic English with Aya in 15 Episodes~ 映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ』(金星堂)

備考

授業科目	教育原理			担当者	河地 あすか		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	保育1年	時間数 (単位数)	30 (2)

授業の目的・内容

「教育とは何か」という基本的概念、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史・思想において、それらがどのように現れてきたのかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校（幼稚園・保育所等）の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。そして、これからの社会を生きていく子ども達に必要な教育、特に幼児教育はどうあるべきかを考えることができるようにする。

到達目標

- ・教育の基本的概念を理解する。
- ・教育の歴史に関する基本的な意識を身に付け、様々な子ども観、教育理念、思想について理解する。
- ・幼児教育の基本と幼児の理解について学び、幼児教育の現状と課題について理解する。

授業計画

【後期】

1. 教育とは何か
2. 教育の意義と目的
3. 教育の思想とその歴史①（諸外国）
4. " ②（日本）
5. 教育制度の成立と幼児教育の展開
6. 戦後における教育の再出発
7. 教育の法規と制度の基礎
8. 諸外国における教育・保育
9. 教育の方法①
10. " ②
11. 教育の内容
12. 教育の計画と評価（カリキュラムマネジメント）
13. 現代社会と生涯学習
14. 現代の保育・教育現場の現状と課題
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・事前にテキストを読む等予習をしておくこと
- ・授業毎にリアクションペーパーを記入し復習をすること

評価の方法・基準

- ・受講態度、出席状況（10%）、提出物（30%）、筆記試験（60%）

教科書

- ・『保育のための教育原理』（ミネルヴァ書房）
- ・『幼稚園教育要領解説（文部科学省）』（フレーベル館）
- ・『保育所保育指針解説（厚生労働省）』（フレーベル館）

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、教育課程・全体の計画・指導計画について講義する。

授業科目	社会福祉			担当者	藤原 久礼		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育1年	時間数 (単位数)	30 (2)

授業の目的・内容

保育士に求められる社会福祉の考え方、社会福祉法制度、相談援助技術などについて体系的に学習する。

到達目標

- ・ 日常の暮らしと、社会福祉とのつながりを理解することができる。
- ・ 社会福祉の視点と社会福祉の基礎理念を理解することができる。

授業計画

【前期】

1. 社会福祉と私たちの生活との関わりについて
2. 社会保障について①（生活保護）
3. " ②（社会保険）
4. " ③（社会手当）
5. 社会福祉法と社会福祉六法について
6. 第1種社会福祉事業と第2種社会福祉事業
7. ノーマライゼーションについて
8. 日本の社会福祉施設とその問題点
9. 社会福祉専門職について
10. 社会福祉援助技術の種類と援助方法
11. 福祉サービス利用者の権利擁護と苦情解決
12. 少子高齢社会について
13. 保育所、認定こども園、幼稚園の共通点と相違点
14. 児童相談所の役割と機能について
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・ 授業後のまとめとして課題に沿ってレポートを提出する。各レポート 800 字程度とする。

評価の方法・基準

- ・ 筆記試験（50%）、レポート提出（35%）、授業などの取り組み（15%）など総合的に評価する。

教科書

- ・ 『コメディカルのための社会福祉 第3版』（講談社）

備考

SW として福祉現場で経験のある者が、社会福祉法制度や相談援助技術について講義する。

授 業 科 目	社会的養護 I			担 当 者	上栗 明男		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前期	学科・学年	保育1年	時 間 数 (単位数)	30 (2)

授業の目的・内容

児童養護における「家庭養育」と「社会的養護」の関係と役割を理解しながら、養護問題の現状と児童福祉施設の実際について認識を深める。殊に直接処遇における専門的援助技術とそれを補う実践的スキルについても、実践例から学ぶ。

到達目標

- ・社会的養護の対象となる児童に対する偏見や無理解（かわいそうな子・親のいない子等）を払拭し、社会的養護の存在意義と施設の積極的意義を正しく理解することができる。

授業計画

【前期】

1. 入所児童からの訴え（作文集『続・泣くものか』）
2. 児童養護における「家庭養育」と「社会的養護」の定義と関係
3. 社会的養護の歴史と変遷
4. 映画「石井のおとうさんありがとう」鑑賞
5. 「岡山孤児院十二則」と石井十次の実践
6. 現代の家庭養育環境と問題
7. 施設養護の原理
8. 施設養護における集団性の弊害と治療教育的利点
9. 児童援助技術の実践的スキル
10. 日常生活の援助の在り方（衣食住）
11. 「インケア」と「アフターケア」の関係
12. 児童相談所及び関係機関との連携
13. 入所施設保育者としての資質
14. 望ましい保育者像
15. まとめとレポート作成

事前・事後学習の内容

- ・最近のマスメディアで報道される「児童虐待事案」や児童福祉に関する施策・法改正について関心を持っておくこと。

評価の方法・基準

- ・レポートを基本とするが（90%）、授業への取り組み（授業への関心度・マナー・質問への応答）（10%）も加味する。

教科書

- ・近畿大学九州短期大学指定テキスト『社会的養護』（中央法規）

備考

授業科目	教育課程総論			担当者	河地 あすか		実務経験
	履修方法	講義	期 間		後期	学科・学年	保育1年

授業の目的・内容

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基準として、幼稚園・保育所・こども園において編成される教育課程・全体的な計画・教育及び保育の内容に関する全体的な計画について、その意義や役割、編成の方法を理解する。そして、指導計画を作成する上での留意事項や適切に活用する方法を様々な資料に触れながら理解する。また、指導計画の立案・実践・反省・評価（カリキュラムマネジメント）の重要性についても学ぶ。

到達目標

- ・教育課程、全体的な計画の目的や意義、役割について説明できる。
- ・教育課程、全体的な計画と指導計画との関係を説明できる。
- ・指導計画を立案、作成することができる。

授業計画

【後期】

1. 幼児教育、保育の基本
2. 教育課程（幼稚園）、全体的な計画（保育所・こども園）の意義と役割①
3. " ②
4. 幼稚園教育の基本
5. 教育課程と指導計画の実際
6. 保育所保育の基本
7. 全体的な計画と指導計画の実際
8. 指導計画作成の基本と方法
9. 指導計画の作成①
10. " ②
11. 3歳未満児の保育と指導計画
12. 3歳以上児の保育と指導計画
13. 保育の実践と評価①
14. " ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・事前にテキストを読んでおくこと
- ・授業毎に復習し理解を深めておくこと

評価の方法・基準

- ・受講態度、出席状況（10%）、提出物（30%）、筆記試験（60%）

教科書

- ・『教育・保育課程論：書いて学べる指導計画』（萌文書林）
- ・『幼稚園教育要領解説（文部科学省）』（フレーベル館）
- ・『保育所保育指針解説（厚生労働省）』（フレーベル館）

備考

授業科目	教育方法論			担当者	樋野本 順子		実務経験
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	保育1年	時間数 (単位数)	30 (2)

授業の目的・内容

子どもの生活の中心は遊びであり、その遊びは子どもにとって学びである。保育者は、子ども達と様々な遊びに取り組み、共に楽しんだり悩んだりしながら、子どもの中に遊びを通して育つことや育ってほしいことを指導・援助していく。本授業では、教育方法を学び、保育者として必要な知識と技術を学ぶ。また、保育場を観察し、集団構造について考察し、子ども理解と保育方法について探究する。

到達目標

- ・教育方法について学び理解する。
- ・様々な保育の形態について理解し、説明できる。
- ・保育を構成する教材や環境について理解し、実践を構想できる。

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション
2. 幼児にふさわしい教育方法
3. 幼児の主體的な生活を基盤とする保育
4. あそびのなかの学びをはぐくむ保育①
5. " ②
6. " ③
7. 方法としてのさまざまな保育形態
8. 保育における評価
9. 小学校教育との連関
10. 家庭や地域と連携した保育①
11. " ②
12. " ③
13. これからの保育計画①
14. " ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・最近の教育に関する情報を、新聞、インターネット、雑誌から収集しておく。
- ・授業で学んだ内容についてまとめておく。

評価の方法・基準

- ・期末試験 (70%)、出席と授業への積極的な参加 (30%)

教科書

- ・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
- ・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
- ・『幼児教育の方法』（北大路書房）、内閣府『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』

備考

授 業 科 目	教育心理学			担 当 者	則武 良英		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

保育の実践に必要な心理学的知見を理解することによって、子どもを見る目・保育を見る目を養う。
子育て支援の一環として保育における相談に対応できる能力を育成する。

到達目標

- ・保育の実践に役立つ心理学の基礎的な知識・視点を身につける。

授業計画

【前期】

1. 保育と教育心理学
2. 子どもの発達（Ⅰ）
3. " （Ⅱ）
4. 学習行動の基礎
5. 学びの動機づけ
6. 知的能力の発達
7. パーソナリティの発達
8. 教育・保育における評価
9. 発達障害のある子どもの教育・保育
10. 保育のなかで生かす教育心理学

【後期】

11. 就学に向けて（幼・保・小連携）
12. 家族ぐるみの教育的支援
13. 子どもをめぐる教育的問題
14. まとめ①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・各授業までに、教科書の該当箇所を読んでおく。

評価の方法・基準

- ・学期末試験を重視する（50%）。提出物（レポート課題）等も考慮する（50%）。

教科書

- ・『新時代の保育双書 保育に生かす教育心理学』（株式会社みらい）

備考

授 業 科 目	幼 児 の 心 理 学			担 当 者	則 武 良 英		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数 (単 位 数)	1 5 (1)

授業の目的・内容

本授業では、保育に携わる者に必要とされる子どもの発達を捉える視点や子どもの発達過程について学び、子どもへの理解を深める。また、子どもの発達に影響を与える人や環境の意義を理解する。

到達目標

- ・子どもの諸側面の発達過程を説明することができる。
- ・子どもの発達を捉える理論とそれに基づく保育について説明することができる。

授業計画

【後期】

1. 子どもの発達を理解とその意義、子どもの発達と環境
2. 発達観、子ども観と保育観、保育実践の評価
3. 社会情動的発達（自己と感情、他社理解、他社とのかかわり）
4. 身体的機能と運動機能の発達
5. 認知の発達（認識の基礎、数と形、言葉と文字）
6. 乳幼児期の学びにかかわる理論
7. 乳幼児期の学び過程と特性（認定的学び、社会情動的学び）
8. 乳幼児期の学びを支える保育

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時に示す課題についてレポートを作成する。

評価の方法・基準

- ・出席状況（30%）、レポート（40%）、期末試験（30%）に基づき総合的に評価する。

教科書

- ・『新・基本保育シリーズ⑧ 保育の心理学』（中央法規）
- ・『保育に生かす教育心理学』（みらい）
- ・配布資料

備考

授 業 科 目	保 育 内 容 総 論			担 当 者	河 地 あ す か		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の保育内容の全体構造について学ぶ。また、幼児教育・保育の基本についての学びを深め、保育を实践できる基礎知識、応用力を習得することを目的とする。

到達目標

- ・ 保育所、幼稚園、こども園の保育内容について総合的に理解をする。
- ・ 子どもの発達の特性と保育内容、方法について理解をする。
- ・ 環境を通した保育、養護と教育の一体化、総合的な指導について理解を深める。

授業計画

【前期】

1. 保育の基本及び保育内容の理解（幼稚園・保育所・こども園）
2. 保育の目的・目標・内容の関係の理解
3. 子どもの発達の特性と保育内容（3歳未満児）
4. 0歳児～2歳児の発達と保育の理解
5. 子どもの発達の特性と保育内容（3歳以上児）
6. 3歳児～5歳児の発達と保育の理解
7. 養護と教育が一体的に展開する保育
8. 養護と教育の一体的な保育の理解（3歳未満児の遊びから）
9. 環境を通して行う保育
10. 事例から環境の構成を考える
11. 遊びによる総合的な保育
12. 総合的な保育の理解（わらべ歌遊びから）
13. 生活や発達の連続性に考慮した保育
14. 発達や学びの連続性の理解
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・ 毎授業において予習内容を明示するので取り組むこと。
- ・ 授業後に配布するワークシート記入を通して復習をすること。

評価の方法・基準

- ・ 受講態度、出席状況（30%）、ワークシート提出（20%）
- ・ グループ演習によるディスカッションと発表（50%）（2・4・6・8・10・12・14）

教科書

- ・ 『マンガとアクティブラーニングで学ぶ保育内容総論[第2版]』（保育出版社）
- ・ 『幼稚園教育要領解説（文部科学省）』（フレーベル館）
- ・ 『保育所保育指針解説（厚生労働省）』（フレーベル館）

備考

授業科目	健康（指導法）			担当者	樋野本 順子		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育1年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

乳幼児の成長・発達について理解し、子どもの身体・こころの健康に必要な生活習慣や活動の中心となる遊びの意味について実践をしながら理解していく。また、子どもの指導・援助にあたる上で知っておくべき知識や技術を学び、現代的な課題を探究していく。

到達目標

- ・「幼稚園教育要領や保育所保育指針の領域「健康」に示される、ねらい・内容を踏まえ、乳幼児の「基本的生活習慣」・「運動遊び」・「安全教育」等の指導・援助及び環境構成の在り方を理解し、実践する。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション 心身の健康に関する領域「健康」①
2. " ②
3. 乳幼児の健康と課題
4. 領域「健康」における教材研究
5. 安全教育と安全管理
6. 身近な物を使っての遊びと健康①
7. " ②
8. " ③、発表
9. リズム遊びと健康①
10. " ②
11. " ③、発表
12. 集団遊びと健康①
13. " ②、発表
14. 応急処置法
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業時間内で学習した内容に関して復習するとともに、遊びの取り組みや指導・教材・応急処置等についてノートに整理しておく。

※活動の際には、指定された服装、身だしなみで臨むこと。

評価の方法・基準

- ・発表（50%）、レポート（30%）、授業への積極的取組（20%）

教科書

- ・『演習保育内容 健康』（萌文書林）
- ・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
- ・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
- ・内閣府『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、幼児教育・保育の基本である、保育のねらいと内容「健康」について講義する。

授 業 科 目	環 境 (指 導 法)			担 当 者	樋野本 順子		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「環境」のねらい・内容の理解と共に、他領域との関係についても理解を深める。

季節の行事や習慣について調べたり、動植物の飼育栽培方法を調べたり、地域マップ作りを体験することにより、生命の尊さを学ぶと共に、観察力を身に付けていく。

到達目標

- ・幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容を理解する。
- ・領域「環境」を中心とした保育指導法と保育を構成する力を身に付ける。

授業計画

【後期】

1. 「環境」と保育
2. 子どもを取り巻く環境の変化
3. 領域「環境」のねらい及び内容について
4. 乳幼児の好奇心、探究心を育む保育
5. 思考力の芽生えを育む保育
6. 身近な生活の中でのかかわりと保育
7. 季節を考えた保育①
8. " ②
9. " ③
10. 物的環境を考えた保育①
11. " ②
12. " ③
13. 安全教育と保育環境
14. 保育の計画と方法
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・事前にテキストを読み、不明な点を明確にしておくこと。
- ・毎回課題を出すので次回までに仕上げ、整理しておくこと。
- ・授業は、指定した服装、身だしなみで受けること。

評価の方法・基準

- ・課題に対する取り組み (65%)、レポート (20%)、授業への積極的な取り組み (15%)

教科書

- ・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
- ・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
- ・『保育と環境』（嵯峨野書院）

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、幼児教育・保育の基本である、保育のねらいと内容「環境」について講義する。

授業科目	言葉（指導法）			担当者	河地 あすか		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育1年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」に示された保育内容領域「言葉」のねらい及び内容について理解する。また、0歳から就学前までの乳幼児の言葉の発達過程について理解し、それにふさわしい具体的な指導方法を認識し、言葉を育み豊かにしていくための保育者の役割について理解する。

到達目標

- ・「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」における領域「言葉」のねらい・内容を理解することができる。
- ・乳幼児の言語発達について理解することができる。
- ・乳幼児の言葉の獲得と保育者の関わり的重要性について理解することができる。

授業計画

【前期】

1. 言葉の役割①
2. 言葉の役割②
3. 言葉の発達①
4. 言葉の発達②
5. 言葉の獲得を支える環境①
6. " ②
7. " ③
8. 領域「言葉」の理解（3歳未満児）
9. 領域「言葉」の理解（3歳以上児）
10. 配慮が必要な幼児への指導
11. ICTを利用した領域「言葉」の保育実践
12. 児童文化財、言葉遊びと幼児の関わり
13. 保育実践（絵本等）①
14. " ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・テキストを事前に読んでおくこと。
- ・乳幼児の表情や言葉について興味をもち観察をしておきましょう。
- ・乳幼児の絵本等に日頃から興味関心をもち、積極的に手に取ってみてください。

評価の方法・基準

- ・筆記試験（60%）、児童文化財を使用した保育実践（30%）、受講態度・出席状況（10%）

教科書

- ・『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）・『保育所保育指針解説』（厚生労働省）
- ・『保育内容「言葉」乳幼児期の言葉の発達と援助』（ミネルヴァ書房）

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、幼児教育・保育の基本である、保育のねらいと内容「言葉」について講義する。

授業科目	造形表現 (指導法)			担当者	樋野本 順子		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	保育1年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

- 多様な幼児の造形表現活動に必要な基礎的技術・知識の習得。
- 生活を豊かにしたり、感動を伝え合ったりできる表現活動を体験する。
- 幼児の心を動かす造形を自分達自身で作り出していく。

到達目標

- 造形活動の基礎となる平面・立体の作品作り・身近な素材を使った制作活動を通して、多様な幼児の造形表現活動に必要な材料研究を行い、幼児の造形活動における適切な指導や援助方法を理解する。
- 作品を作って活動したり、鑑賞したりすることを通して様々な表現活動の意味に気付き工夫して遊んだり、演出したりする力を養う。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション 造形表現についての概要
2. 幼児造形表現の理解・かく・つくるの発達段階
3. 絵画技法の色々①
4. // ②
5. 表現技法を使って①
6. // ②
7. 人形劇①
8. // ②
9. // ③
10. 中間発表
11. 人形劇④
12. // ⑤
13. // ⑥
14. // ⑦
15. 発表

【後期】

16. 造形活動の展開 指導案①
17. // ②
18. // ③
19. // ④
20. 生活を彩る造形①
21. // ②
22. // ③
23. // ④
24. // ⑤
25. // ⑥
26. // ⑦
27. // ⑧
28. 作品紹介 発表①
29. // ②
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・使用する道具・材料の準備をする。(※指定している持参材料・道具は、指定されたものを持参する。)
- ・授業で制作した作品を大切にし、製作方法・感想・作品の写真をきちんと整理する。
- ・授業は、指定した服装で受けること。

評価の方法・基準

- ・課題作品提出、レポート (70%)、材料、道具、授業準備、積極的活動 (30%)

教科書

- ・『幼児・初等教育 造形コース』(日本色研)
- ・『造形表現 (指導法)』(近畿大学九州短期大学)
- ・プリント

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、様々な教材の使い方・表現方法・技術を指導する。

授業科目	音楽表現(指導法)			担当者	松本 愛		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	前期	学科・学年	保育1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「表現」から、子どもの姿や保育者の指導方法など、幼児教育の音楽的な表現について学び理解する。また、感性を豊かにし、様々な表現を楽しみ考える力を身に付け、保育現場の音楽的表現活動において指導者としての基本的知識・実践的な技術を身に付けることを目的とする。

到達目標

- ・年齢に合った手遊びやリズム遊びを理解し、表現することができる。
- ・保育者として、状況に合わせて様々な音楽遊びを表現し指導することができる。

【前期】

1. オリエンテーション(領域「表現」と音楽表現について、手遊び・音楽遊び・リズム遊びについて)
2. 手遊び・指遊び①、身体表現①、わらべうた①、発声について①
3. " ②、 " ②、 " ②、 " ②
4. " ③、 " ③、 " ③、リトミックについて①、リズム遊び①
5. " ④、 " ④、 " ④、 " ②、 " ②
6. " ⑤、 " ⑤、 " ⑤、 " ③
7. " ⑥、 " ⑥、 " ⑥、拍子(2・3・4拍子)の捉え方
8. " ⑦、 " ⑦、 " ⑦、絵かきうた・数字のうた(グループで考え発表)
9. " ⑧、 " ⑧、 " ⑧、ごっこ遊び
10. 音楽遊び①、復習、グループ発表
11. " ②、手遊び・指遊び⑨、身体表現⑨、わらべうた⑨、楽器遊び①
12. " ③、 " ⑩、 " ⑩、 " ⑩、 " ②
13. まとめ①、準備
14. " ②、手遊び個人発表
15. " ③、レポート

事前・事後学習の内容

- ・年齢や状況に合わせた手遊びを練習し考えておくこと。
- ・歌唱やピアノの練習で音程を学ぶ以外に、体を動かしリズムも意識すること。

評価の方法・基準

- ・発表<個人(40%)・グループ(30%)>、出席状況および授業態度(15%)、課題(15%)

教科書

- ・『声楽<声楽教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)、『音楽<ピアノ教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)
- ・『保育実用書シリーズ こどものうた200』(チャイルド社)、『保育実用書シリーズ 続こどものうた200』(チャイルド社)
- ・『楽しい音楽表現』(圭文社)、プリント配布

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、その経験授業計画を活かして音楽表現方法・技術を指導する。

授業科目	劇遊び (指導法)			担当者	樋野本 順子		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育1年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

劇遊びを行う上で必要な、身体活動や想像力を豊かにする活動を通して、自己発見と他者理解力を高める。模擬保育として、クラスメイトの前で身体表現活動を発表し、技術を高める。オペレッタや劇づくりを行い実践する。

到達目標

- ・子どもの身体表現の基本的知識を理解し、子どものもつ感性や表現力を引き出すための指導方法、援助方法を体得する。
- ・感性を磨きイメージを豊かにし、保育者に必要な発想力・表現力を習得する。
- ・クラスメイトと共に協力して一つのものを仕上げることを通して、協働、共生の意味を理解する。

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション
2. 劇内容を考える①
3. " ②
4. 演出方法①
5. " ②
6. " ②
7. 衣装づくり①
8. " ②、
9. パンフレット作り①
10. " ②
11. 予行演習、振り返り
12. 劇 (練習) ①
13. 劇 (発表) ①
14. " ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・配役の表現方法について調べ、練習する。
- ・クラスメイトと協力して動きや表現活動の練習を行う。
- ・活動の反省、感想、指導法をノートに整理しておく。

※実習着、シューズで授業に参加すること。

評価の方法・基準

- ・出席と授業への取り組み (70%)、レポート (30%)

教科書

『幼稚園教諭・保育士をめざす 楽しい音楽表現』(圭文社)

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、子どもの感性や表現力を引き出す指導・援助方法を指導する。

授業科目	幼児と音楽表現			担当者	松本 愛		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	後期	学科・学年	保育1年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

保育者としてピアノを使い弾き歌いをする事は、子ども達にとって生活や季節を感じる事、体を使い表現することなどの雰囲気演出するにおいて大事な役割である。

- ・基礎的な楽典を理解し、季節や生活に合わせた弾き歌い曲を練習し習得する。
- ・ハ長調のほかにもト・ヘ・二長調の音階やコードも練習し習得する。
- ・毎週レッスンと小テストを行い、個々に合った練習方法で演奏技術の向上を目的とする。

到達目標

現場に必要なピアノ技術やコードを使って奏する力、弾き歌い技術の習得、向上を目標とする。

- ・楽譜を読み、音程や音階を理解し歌唱やピアノで表現することができる。
- ・ハ・ト・ヘ・二長調の音階やコードを理解することで弾き歌い曲のレパートリーを増やし、歌い示すことができる。

授業計画

【後期】

1. レッスン (バイエル・弾き歌い曲) ①、小テスト①、コード・音階(Cdur)①
2. " " ②、 " ②、 " ②
3. " " ③、 " ③
4. " " ④、 " ④、新しいコードGdur について
5. " " ⑤、 " ⑤、コード・音階(Gdur)①
6. " " ⑥、 " ⑥、 " ②
7. " " ⑦、 " ⑦、 " ③
8. " " ⑧、 " ⑧、新しいコードFdur について
9. " " ⑨、 " ⑨、コード・音階(Fdur)
10. " " ⑩、 " ⑩、新しいコードDdur について
11. " " ⑪、 " ⑪、コード・音階(Ddur)
12. " " ⑫、復習①、コード・音階(Ddur)
13. " " ⑬、 " ②
14. " " ⑭、 " ③、発表
15. まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

- ・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習 などを繰り返すこと。
- ・ゆっくり丁寧な練習を心がける。

評価の方法・基準

- ・実技試験 (課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>) (85%)
- ・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト (15%)

教科書

- ・『声楽<声楽教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部) ・『音楽<ピアノ教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)
- ・『保育実用書シリーズ こどものうた 200』(チャイルド社) ・『保育実用書シリーズ 続こどものうた 200』(チャイルド社)
- ・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜) ・プリント配布

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、その経験を活かして音楽表現方法・技術を指導する。

授業科目	幼児と言葉			担当者	樋野本 順子		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育1年	時間数 (単位数)	15 (1)

授業の目的・内容

幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「言葉」について理解し、乳幼児の言葉の発達を促す環境や豊かな言葉表現が身に付くための配慮事項を学修していく。絵本・紙芝居やその他の児童文化に触れ、創造する楽しさや喜びを自らも感じ、保育実践に繋げていけるよう指導技術を身に付ける。

到達目標

- ・言葉の意義と機能について説明できる。
- ・言葉の感覚を豊かにする実践についての知識を身に付ける。
- ・児童文化について基礎的な知識を身に付ける。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 乳幼児期の言葉の発達
3. 保育内容としての「言葉」
4. 言葉の発達と環境
5. 絵本を活かした保育①
6. " ②
7. 言葉を楽しむための言葉遊び・文字遊び
8. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・自分自身への言葉、他者への言葉等、日々丁寧な言葉遣いを意識して欲しい。
- ・自分が持っている絵本だけでなく、図書館で様々な絵本に触れたり、実習施設での子どもの言葉を促す環境構成について観察したりして、整理しておく。

評価の方法・基準

- ・期末試験 (50%)、レポート (30%)、授業への積極的な取り組み (20%)

教科書

- ・『子どもと言葉 新訂第2版』(萌文書林)
- ・文部科学省『幼稚園教育要領』(フレーベル館)、文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)
- ・厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館)、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館)
- ・内閣府『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』

備考

授 業 科 目	幼 児 と 環 境			担 当 者	樋野本 順子		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数 (単 位 数)	1 5 (1)

授業の目的・内容

幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」のねらい・内容について学習する。子どもの他領域との関わりについて理解する。

保育の実践を通して指導上の配慮事項についての知識・技術を理解する。

到達目標

- ・幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「環境」について理解する。
- ・乳幼児の生活を取り巻く環境（自然環境・社会環境等）にかかわる保育の意義を知り、保育者として身に付ける知識・技術を習得する。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 保育の基本と内容
3. 領域「環境」のねらいと内容
4. 発達と環境
5. 環境構成における保育者の役割
6. 自然現象にかかわる保育
7. 物にかかわる保育
8. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・日々自分の周りの環境を意識する。（自然環境、社会環境、人、物）
- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」及び教科書を熟読しておく。
- ・子どもを取り巻く環境についてインターネット等で調べ整理しておく。

評価の方法・基準

- ・レポート（50%）、課題作成（30%）、授業への積極的な参加（20%）

教科書

- ・田尻 由美子、無藤 隆『保育内容 子どもと環境 ー基本と実践事例ー』（同文書院）
- ・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
- ・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
- ・内閣府『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』

備考

授 業 科 目	教育実習事前事後指導Ⅰ			担 当 者	河地 あすか		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

教育実習の事前事後指導を行う授業である。教育実習に参加する学生は必ず受講をしなければならない。

事前指導では、教育実習が円滑に実践できるように、教育実習の意義や概要、実習の心構えや準備、実習に臨む基本姿勢、日誌・指導案の書き方等を学ぶ。また、ねらいや目標をもって、実習に取り組むことができるようにする。事後指導では、実習の学習内容を振り返り自己課題の発見に努める。

到達目標

- ・実習の意義と目的を理解する。
- ・実習生としてふさわしい姿勢や態度を身に付けることができる。
- ・実習日誌、指導案の書き方が理解できる。

授業計画

【後期】

1. 教育実習の概要
2. 教育実習の意義と目的
3. 教育実習の手続き
4. 幼稚園の一日の流れと幼稚園教諭の職務内容
5. 実習生としての心構え①
6. " ②
7. 実習日誌の書き方①（幼稚園教諭の一日を追って）
8. " ②
9. " ③
10. " ④
11. 部分実習の内容と方法①
12. " ②
13. 指導案の書き方
14. 実習報告会
15. 1年後期のまとめと課題

事前・事後学習の内容

- ・実習で必要な姿勢や態度は日常生活から取り組むことで身に付きます。授業で学んだことを実践してみましょう。
- ・ボランティア活動に積極的に参加し子どもや保護者と関わってみましょう。
- ・日頃から親子に関心をもって、保護者や子どもの様子を観察してみましょう。

評価の方法・基準

- ・出席状況（40%）、受講態度（30%）、レポート提出（30%）

教科書

- ・『学び続ける保育者を目指す実習の本（保育所・施設・幼稚園）』（萌文書林）
- ・『幼稚園教育要領解説（文部科学省）』（フレーベル館）
- ・プリント配布

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、実習生としての心構え、マナー、実習記録の方法等について指導する。

授業科目	音楽(基礎)			担当者	松本 愛		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	前期	学科・学年	保育1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

保育者としてピアノを使い弾き歌いをするのは、子ども達にとって生活や季節を感じる事、体を使い表現するなどの雰囲気を出す事において大事な役割である。

- ・楽典で楽譜の読み方(調号拍子・音符やリズム・強弱など)やピアノ奏法の基礎を学び、季節に合わせた弾き歌い曲を練習し習得する(ハ長調)。
- ・毎週レッスンと小テストを行い、個々に合う練習方法を知り行うことで演奏技術の向上を目的とする。

到達目標

現場に必要な音楽の知識を身に付け、楽典やピアノや弾き歌いの実技能力の基礎を習得することを目標とする。

- ・楽譜の読み方を理解することができる。
- ・ピアノ奏法(指使い)を守って弾くことができる。
- ・ハ長調のコードを覚え、簡単な伴奏を付けられる。
- ・ハ長調の弾き歌いができる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション(自己紹介、授業説明、ピアノ室の使用法・レッスンについて、課題発表)
2. 楽典①、ピアノ奏法基礎①、レッスン①、季節・生活の歌①、小テスト①、Cdur(コード・音階)①、歌唱基礎①
3. // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②、 // ②
4. // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③、 // ③
5. // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④、 // ④
6. // ⑤、 // ⑤、 // ⑤、 // ⑤、 // ⑤、 // ⑤
7. // ⑥、 // ⑥、 // ⑥、 // ⑥、 // ⑥、 // ⑥
8. // ⑦、 // ⑦、 // ⑦、 // ⑦、 // ⑦、 // ⑦、バイエル①
9. // ⑧、 // ⑧、 // ⑧、 // ⑧、 // ⑧、 // ⑧、 // ②
10. // ⑨、 // ⑨、 // ⑨、 // ⑨、 // ⑨、 // ⑨、 // ③
11. // ⑩、 // ⑩、 // ⑩、 // ⑩、 // ⑩、 // ⑩、 // ④、まとめテストについて
12. 復習①、まとめ①、レッスン①
13. 復習②、 // ②、 // ②、筆記試験
14. 復習③、 // ③、 // ③
15. 復習④、 // ④、実技試験

事前・事後学習の内容

- ・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習 などを繰り返すこと。
- ・ゆっくり丁寧な練習を心がける。

評価の方法・基準

- ・実技試験 (課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>) (80%)
- ・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト (20%)

教科書

- ・『声楽<声楽教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)、『音楽<ピアノ教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)
- ・『保育実用書シリーズ こどものうた 200』(チャイルド社)、『保育実用書シリーズ 続こどものうた 200』(チャイルド社)
- ・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜)、プリント配布

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、即現場に役立つ音楽の基礎を指導する。

授業科目	歌唱			担当者	松本 愛		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	後期	学科・学年	保育1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

幼児期に唄われるわらべうた、唱歌、童謡をはじめ、心にのこる日本の歌など、様々な「うた」を音楽知識と共に歌唱学習する。

呼吸法、発声法の歌唱基礎を学び、幼児の音楽活動に対して適切な指導や援助ができるよう、内面的感性、歌唱力、表現力を身に付ける。

到達目標

- ・さまざまな季節の歌・生活の歌を理解し、歌唱で表現できる。
- ・正確な音程を理解し、ピアノ伴奏に合わせ歌い示すことができる。
- ・保育者として、歌唱の指導・援助ができる。

授業計画

【後期】

1. 発声・呼吸法①、季節・生活の歌①、ソルフージュ①、わらべうた・手遊びうた・合唱・劇中歌・他
2. " ②、 " ②、 " ②、 "
3. " ③、 " ③、 " ③、 "
4. " ④、 " ④、 " ④、 "
5. " ⑤、 " ⑤、 " ⑤、 "
6. " ⑥、 " ⑥、 " ⑥、 "
7. " ⑦、 " ⑦、 " ⑦、 "
8. " ⑧、 " ⑧、 " ⑧、 "
9. " ⑨、 " ⑨、 " ⑨、 "
10. " ⑩、 " ⑩、 " ⑩、 "
11. " ⑪、 " ⑪、 " ⑪、 "
12. " ⑫、 " ⑫、 " ⑫、 "
13. 復習①
14. " ②
15. まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

- ・発声法や日本語の発音などを日頃から意識しておく。
- ・授業で習った歌を、音程に気を付けて自主練習すること。

評価の方法・基準

- ・実技試験（課題曲〈ソロ・ペア〉）（85%）、出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢（15%）

教科書

- ・『声楽<声楽教本>』（近畿大学九州短期大学通信教育部）
- ・『音楽<ピアノ教本>』（近畿大学九州短期大学通信教育部）
- ・『保育実用書シリーズ こどものうた200』（チャイルド社）
- ・『保育実用書シリーズ 続こどものうた200』（チャイルド社）
- ・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』（ドレミ楽譜）
- ・プリント配布

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、発声方法や幼稚園・保育所で歌われている歌等指導する。

授業科目	事前保育教育観察実習 (幼稚園・保育所)			担当者	樋野本 順子 河地 あすか		実務経験
履修方法	実習	期間	通年	学科・学年	保育1年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

2年次・3年次の2週間の実習に向けて事前準備の1つとして見学実習を実施する。幼稚園、保育所において1日実習に取り組み、幼稚園、保育所の様子、乳幼児の様子、保育者の関わり等を見学、観察をする。実習を通して、学んだり、感じたりしたことを今後の授業に生かすことを目的とする。

到達目標

- ・幼稚園、保育所の一日の流れを理解する。
- ・幼稚園、保育所の乳幼児の子どもの様子を観察する。
- ・保育者の子どもへの関わりを観察する。

授業計画

《幼稚園見学観察実習》

- ・実習の心構え
- ・実習日誌の書き方
- ・幼稚園教育の基本理解（幼稚園教育要領）
- ・発達の特徴の理解（3～5歳児）
- ・部分実習の教材研究と立案、模擬保育実践と反省、改善（グループ演習）
- ・学内オリエンテーション
- ・1日観察実習
- ・実習報告会

《保育所見学観察実習》

- ・実習の心構え
- ・実習日誌の書き方
- ・保育所保育の基本理解（保育所保育指針）
- ・発達の特徴の理解（乳児～5歳児）
- ・観察実習の目標（グループ討議）
- ・学内オリエンテーション
- ・1日観察実習
- ・実習報告会

事前・事後学習の内容

- ・保育者としての立ち居振る舞いや言葉遣いを普段から意識して生活をしましょう。
- ・普段の生活の中で、養育者や乳幼児に興味、関心をもち、観察をしてみましょう。
- ・実習での学習内容を学内での授業と関連付けながら受講し学びを深めてみましょう。

評価の方法・基準

- ・出席状況、受講態度（30%）、提出物（20%）、実習の姿勢や態度（20%）、実習報告内容と姿勢（30%）

教科書

- ・使用しない。

備考

授業科目	指導案実践演習 I			担当者	河地 あすか		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	後期	学科・学年	保育1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

指導案を作成し、模擬保育実践に特化する授業である。乳幼児の発達の特徴の理解・資料の収集・活動の選択・指導案の立案・教材準備・指導案の実践・振り返り・反省と評価の過程を通して、乳幼児の前に立つ保育者として必要な姿勢や態度、実践力等を身に付ける。

到達目標

- ・乳幼児の発達や興味関心、季節等に応じた指導案の作成ができる。
- ・指導案を実践するために、実践日までに教材や資料を準備できる。
- ・指導案を実践（模擬保育）し、客観的に振り返り、反省・評価ができる。

授業計画

【後期】

1. 指導案の書き方①
2. " ②
3. グループ演習（指導案作成・教材準備）①
4. " ②
5. 模擬保育（グループ発表）①
6. " ②
7. 指導案作成、教材準備
8. 模擬保育①、カンファレンス①
9. " ②、 " ②
10. " ③、 " ③
11. " ④、 " ④
12. " ⑤、 " ⑤
13. " ⑥、 " ⑥
14. " ⑦、 " ⑦
15. " ⑧、 " ⑧

事前・事後学習の内容

- ・観察実習時の学びの内容や子どもの様子について書き出しておくこと。
- ・他の授業を関連させ乳幼児の発達の特徴について理解を深めておくこと。
- ・模擬保育を実践できるよう、教材や資料を準備しておくこと。

評価の方法・基準

- ・模擬保育日一週間前までに作成した指導案と教材の提出（40%）
- ・受講態度および出席状況（20%）、模擬保育実践（20%）、模擬保育後のレポート提出（20%）

教科書

- ・なし

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、指導計画の立案・実践方法について指導する。

授 業 科 目	基礎マナー講座			担 当 者	齋木 亜子		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

保育者として社会に出た際に必要となる社会人としての常識やマナーを学び、身に付ける。
職場での人間関係や保護者との関係がスムーズになるような「好感をもたれる保育者」を目指す。

到達目標

- ・ TP0 にあった身だしなみ、立ち居振る舞い、言葉遣いを身に付ける。
- ・ 実習先に感じのよい電話がかけられる。
- ・ 履歴書がきれいに書ける。

授業計画

【後期】

1. 社会人としての心構え
2. 言葉遣いの基本
3. 敬語と接遇用語
4. 立ち居振る舞い（立ち姿・お辞儀・椅子の立ち座り・歩き方）
5. 電話のかけかた：実習先にオリエンテーションのお願いの電話をかける方法
6. 交際のマナー①：慶事（結婚式に招かれたとき）
7. " ②：弔事（葬儀・告別式への参列）
8. " ③：贈答・訪問
9. 来客応対とその他のマナーについて
10. 電話応対①：電話の受け方
11. " ②：伝言メモの取り方
12. 電話応対実践／美文字レッスン（履歴書の書き方）①
13. " ②
14. 日本茶の入れ方、こどもと一緒に作るおやつ
15. まとめ：就職面接の受け方（実技）・敬語（筆記試験）

事前・事後学習の内容

- ・ 授業で学んだ実技を反復練習し、身に付ける。

評価の方法・基準

- ・ 実技（面接の受け方）（30%）、実技（履歴書・封筒の宛名）（20%）、筆記（敬語）（30%）、出席状況（20%）

教科書

- ・ プリント配布

備考

授業科目	地域貢献活動Ⅰ			担当者	松本 愛		実務経験
履修方法	実習	期 間	通年	学科・学年	保育1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

地域貢献活動を通して、地域の企業や施設、地域の方々とのコミュニケーションをはかり役割や支援について考える。

乳幼児や障がい児者との関わりやその特性を理解し、今後の学習や子どもの支援に役立てる。また、職員同士の連携や役割分担・情報の伝達共有など、社会人としての在り方や保育者として必要な倫理観や専門職意識を養う。

前期2回、後期2回地域貢献(ボランティア)活動に参加し、活動報告書を提出する。

到達目標

- ・乳幼児、障がい児者の特性を理解する。
- ・地域貢献(ボランティア)活動の経験を通して、乳幼児や障がいのある人たちと関わる力を身に付ける。
- ・保育者としての専門的な倫理観と専門職としての意識を養い、社会人としての基礎を身に付ける。

授業計画

【通年】

1. オリエンテーション
2. 地域貢献(ボランティア)活動の心得とマナー、情報収集、依頼
3. 実習 (1回目) ①
4. " ②
5. 実習 (2回目) ①
6. " ②
7. 地域貢献(ボランティア)活動報告会①
8. まとめ①
9. 情報収集、依頼
10. 実習 (3回目) ①
11. " ②
12. 実習 (4回目) ①
13. " ②
14. 地域貢献(ボランティア)活動報告会②
15. まとめ②

事前・事後学習の内容

- ・活動の情報収集と申し込みを各自で行い、科目担当教員へ報告する。
- ・活動前後に対象者の特性を理解するためのまとめを行う。

評価の方法・基準

- ・活動の取り組み(60%)、地域貢献(ボランティア)活動後の報告書などの提出物(40%)の総合評価。
- ・前期2回、後期2回の地域貢献(ボランティア)活動への参加を授業評価の必須とする。

教科書

- ・適時レジュメを配布する

備考

授 業 科 目	就 職 実 務 I			担 当 者	松 本 愛		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	保 育 1 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

福祉・教育機関に求められる人材の適正を理解し、3年後に即実践者として活躍できるよう、自己を理解することから始め、基礎的マナーや基本用語を学び、保育者としてはもちろん社会人としてのスキルを高めしていく。

到達目標

- ・就職に関する基礎理解及び福祉・教育の職業理解。
- ・気持ちの良い挨拶、感謝の気持ち・思いやりの心で何事にも対応できる。

授業計画

【通年】

1. オリエンテーション
2. クラス活動・委員会決め
3. 挨拶・整理・整頓・掃除・身だしなみについて
4. 社会人と学生の違い これからの就職活動
5. 面談①
6. // ②
7. // ③
8. // ④
9. // ⑤
10. 保育・福祉ナビ・その他①
11. // ②
12. 就職活動について
13. クラス活動①
14. // ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・生活態度（言葉・行動）を意識し過ごすこと。
- ・日々の必要な連絡を癖づけること、自分の課題への取り組みについて分からないことがあれば、相談や報告をすること。
- ・3年後の自分の目標を立てる。
- ・週末などに開催される保育・福祉ナビ等に参加する。

評価の方法・基準

- ・授業への積極的な取り組み(70%)、提出物(30%)

教科書

- ・『保育を支える生活の基礎』（萌文書林）

備考

2 年

授 業 科 目	保 育 原 理			担 当 者	河 地 あすか		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 2 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (2)

授業の目的・内容

近年の社会状況から保育制度は次々と改変され、保育所・幼稚園・こども園の役割は大きくなると同時に、そこで働く保育者にも資質の向上が求められている。本講義では、保育の基本的概念・基本理念と保育に携わってきた歴史上の人物を通して、保育において重要とされている原理を理解していく。また、現代社会において、求められる保育者としての役割や資質・能力を理解し、自身の向上を目指す。

到達目標

- ・保育の基本的概念、理念を理解する。
- ・代表的な幼児教育者（諸外国・日本）の思想と歴史的変遷を理解する。
- ・保育者に求められる役割と資質・能力等の専門性を理解する。

授業計画

【前期】

1. 「保育」とは何か
2. 幼稚園・保育所・認定こども園における保育の目標、目的
3. 保育の基本「子ども理解」
4. 保育の内容
5. 保育の方法
6. 保育の計画と評価
7. 保育と子育て支援
8. 保育の歴史に学ぶ①（諸外国）
9. " ②（日本）
10. 保育者に求められる専門性・資質の向上
11. 多様な子ども理解と保育
12. 学校・地域との連携
13. 保育に関わる法律と制度
14. 保育の現状と課題
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・事前にテキストを読み予習をしておくこと。
- ・子どもや保育、子育てに関するニュースや情報に興味関心をもち情報を収集すること。

評価の方法・基準

- ・受講態度（グループ演習・報告姿勢を含む）（20%）
- ・出席状況（20%）
- ・筆記試験（60%）

教科書

- ・『保育原理』（ミネルヴァ書房）
- ・『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）
- ・『保育所保育指針解説』（厚生労働省）
- ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）

備考

授 業 科 目	子 ども 家 庭 福 祉			担 当 者	藤 原 久 礼		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 2 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (2)

授業の目的・内容

児童福祉から、子どもが生まれ育つ家庭と地域を含めた「子ども家庭福祉」へと変化してきた背景を理解する。

子育て支援に関する施策や地域の子育て支援について学び、専門職や児童福祉施設、支援に関わる機関、支援方法等について理解する。

到達目標

- ・子どもの家庭環境の変化を多角的な視点から理解できる。
- ・養護を必要とする子どものための施設について理解できる。
- ・子どもの虐待に対応する機関及び施設について理解できる。
- ・障害がある子どもたちの支援について理解できる。
- ・地域実践されている子育て支援施策について理解できる。

授業計画

【後期】

1. 「児童福祉」から「子ども家庭福祉」へと変化した理由
2. 子どもの家庭環境の変化
3. 児童福祉法に基づく児童福祉施設
4. 児童福祉施設における「自立支援」
5. 養護を必要とする子どものための施設
6. 障がいを持つ子どもたちの施設の種別と内容、障害を持つ子どもへの福祉施策
7. 児童相談所の役割と機能
8. 福祉事務所が取り扱う児童福祉に関する業務内容
9. 子どもの健全育成と施設・制度
10. 子どもの虐待の現状と子どもの虐待の未然防止、対応する機関及び施設
11. 子ども子育て支援新制度における、幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園のそれぞれを利用する手続き、認定について
12. 待機児童問題を解消するための施策
13. 認定こども園が必要とされる理由
14. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）のための就労支援
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業内容をふまえ、授業のまとめとして課題レポートの提出をする。

評価の方法・基準

- ・筆記試験（50%）、レポート提出（35%）、授業などの取り組み（15%）など総合的に評価する。

教科書

- ・大津泰子『児童家庭福祉 子どもと家庭を支援する』（ミネルヴァ書房）

備考

授 業 科 目	子 ども 家 庭 支 援 論			担 当 者	藤 原 久 礼		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 2 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (2)

授業の目的・内容

- 子ども家庭支援の現状、課題について理解する。
- 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
- 子育て家庭に対する支援方法についてわかりかいる。

到達目標

- ・子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
- ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
- ・子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
- ・子育て家庭ニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

授業計画

【後期】

子ども家庭支援の儀地と役割

1. 子ども家庭支援の意義と役割
2. 子ども家庭支援の目的と機能

保育士による子ども家庭支援の意義と基本

3. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
4. 子どもの育ちの喜びの共有
5. 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
6. 保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）
7. 家庭の状況に応じた支援
8. 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力

子育て家庭に対する支援の体制

9. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
10. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進

多様な支援の展開と関係機関との連携

12. 子ども家庭支援の内容と対象
13. 保育所等を利用する子どもの家庭への支援
14. 要保護児童等及びその過程に対する支援
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業内容をふまえ、授業のまとめとして課題レポートの提出をする。

評価の方法・基準

- ・筆記試験（50%）、レポート提出（35%）、授業などの取り組み（15%）など総合的に評価する。

教科書

- ・橋本真紀・山縣文治編『よくわかる家庭支援論』（ミネルヴァ書房）

備考

授 業 科 目	社会的養護Ⅱ			担 当 者	上栗 明男		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 2 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

要養護児童・被虐待児童・情緒的問題を抱える児童について、その適切なかわりのために「子ども役」と「援助者役」を演ずる模擬面接や、独特な行動や言動をする子どもたちに対応する模擬体験を通じて実践感覚を養う。また、グループ討議によって、要保護児童を取り巻く社会資源の活用法も学ぶ。

到達目標

- ・子どもと家庭の課題や入所理由の背景を深く探ることによって、子どもの行動の意味を理解し、適切な援助や対応につなげることができる。

授業計画

【後期】

1. 子どもの面接技法とコミュニケーション技法
2. 模擬面接 事例1「家出・非行をもった女兒のケース」
3. " 事例2「不登校・非行をもった男児のケース」
4. " 事例3「家庭内暴力・非行をもった女兒のケース」
5. " 事例4「性的虐待を受けた女兒のケース」
6. 虐待が与える子どもへの影響と特性
7. タイムアウト法（ビデオ視聴）
8. セラピューティックホールド法（ビデオ視聴）
9. 記録の意義とその取り方（叙述体と要約体）
10. 子ども虐待のサインとチェックポイント
11. 作詩療法 事例8「詩集『花火』から
12. グループ討議① 事例7「被虐待児家庭の見守り」
13. " ② 事例9「育児不安家庭への危機介入」
14. " ③ 保育現場のリスクマネジメント
15. まとめとレポート作成

事前・事後学習の内容

- ・最近のマスメディアで報道される「児童虐待事案」や児童福祉に関する施策・法改正について関心を持っておくこと。

評価の方法・基準

- ・レポートを基本とするが（90%）、授業への取り組み（模擬面接・模擬体験への参加・授業への関心度・マナー等）（10%）も加味する。

教科書

- ・プリント配布

備考

授 業 科 目	子ども家庭支援の心理学			担 当 者	河地 あすか		実務経験
履 修 方 法	講義	期 間	前期	学科・学年	保育2年	時 間 数 (単位数)	30 (2)

授業の目的・内容

子育て家庭の支援について理解するために、「生涯発達に関する心理学の基礎知識」、「家族・家庭の意義・機能および子育て家庭をめぐる社会的状況と課題」、「子どもの精神保健とその課題」を学ぶ。また、この学びを通して、子どもの現在の姿を形成する発達や家庭環境を理解し、子どもや子どもを取り巻く人々の発達と健康を支援する保育者を目指す。

到達目標

- ・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。
- ・家族や家庭の意義や機能を理解し、子どもを含めた家庭を包括的に捉える視点をもつ。
- ・子育て家庭をめぐる現代の社会状況、子どもの精神保健の課題について理解する。

授業計画

【前期】

1. 乳児期の発達
2. 幼児期の発達
3. 学童期の発達
4. 青年期の発達
5. 成人期・中年期・高齢期の発達
6. 家族・家庭の意義と機能
7. 家族関係・親子関係の理解
8. 子育ての経験と親としての育ち
9. 子育てを取り巻く社会的状況
10. ライフコースと仕事・子育て
11. 多様な家庭とその理解
12. 特別な配慮を要する家庭
13. 子どもの生活・生育環境とその影響
14. 子どもの心の健康に関わる問題
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・事前にテキストを読んでおくこと
- ・授業毎にリアクションペーパーを記入し復習をすること
- ・子育てをめぐる様々なニュースに関心をもち、読んでおくこと。

評価の方法・基準

- ・受講態度、出席状況 (10%)、レポート① (1～7)・レポート② (8～14) 提出 (30%)
- ・筆記試験 (60%)

教科書

- ・『子ども家庭支援の心理学』（中央法規）

備考

授業科目	子どもの保健			担当者	金光 久美		実務経験
							○
履修方法	講義	期 間	前期	学科・学年	保育2年	時間数 (単位数)	30 (2)

授業の目的・内容

- 小児の概念を小児期の心身の成長・発達および小児を取り巻く社会の動きから把握する。
- 各年齢の特徴、疾病の特徴について学び、疾病予防のための生活・環境条件について理解する。
- 小児期に起こりやすい事故について学び、その予防についての知識を習得する。

到達目標

- ・統計からみた小児保健水準、保健対策について述べることができる。
- ・小児期の代表的な疾患について、その特徴が説明できる。
- ・小児期に起こりやすい代表的な感染症について、その特徴と予防法、対策が説明できる。
- ・小児期に起こりやすい事故について、その予防策が説明できる。

授業計画

【前期】

1. 統計から見た小児保健水準、母子保健、小児保健行政について
2. 子どもの発育の原則
3. 子どもの身体発育の特徴
4. 子どもの生理機能の発達と保健 各器官の特徴①
5. " " ②
6. 子どもの諸機能の発達と保健①
7. " " ②
8. 小児疾病① 先天異常、肢体不自由、重症心身障害
9. " ② 循環器疾患、呼吸器疾患
10. " ③ 消化器疾患、腎、血液疾患
11. 小児の感染症①
12. " ②
13. 子どもの発疹、保育所での感染症の取り扱い、予防接種
14. 子どもの事故とその予防策
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・レポート「月齢ごとに起こりやすい子どもの事故とその予防策」

評価の方法・基準

- ・筆記試験 (80%)、レポート (20%)

教科書

- ・『新版 よくわかる子どもの保健 』(ミネルヴァ書房)
- 『子どもの保健と安全 演習ブック 』(ミネルヴァ書房)

備考

医療機関で看護師として従事した者が、乳幼児の保健、健康に関する知識・技術について指導する。

授業科目	子どもの食と栄養			担当者	齋木 亜子		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	保育2年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

栄養学の基礎知識、胎児期・乳児期・幼児期・学齢期の各ライフステージ別に食生活の特徴や問題点を学ぶことにより、子どもを見守る保育者として食事・食育の重要性を理解する。

到達目標

- ・栄養に関する基本的な知識を自分の食生活の見直しに活用できる。
- ・子どもの発育・発達に対応した食生活の面からの支援ができる。
- ・食物アレルギーについて理解を深める。
- ・食育についての教材に関心をもつ。

授業計画

【前期】

1. なぜ食と栄養を学ぶのか（食生活指針）
2. 子どもの心身の健康と食生活
3. 栄養・食品の知識①：3大栄養素
4. " ②：無機質・ビタミン、食事摂取基準
5. 子どもの発育・発達と食生活（食べる機能）
6. 幼児期の食生活①：幼児期栄養の特徴
7. " ②：食生活への配慮
8. 食物アレルギーについて
9. 妊娠期・胎児期の食生活
10. 乳児期の食生活①：乳汁栄養
11. " ②：離乳食
12. 学齢期・思春期の食生活
13. 児童福祉施設における食生活
14. 障がいのある子どもの食生活、食育について
15. まとめ

【後期】

16. 《演習》食育①：バター作り
17. 《演習》" ②：恐竜卵&イースターエッグ
18. 《演習》" ③：絵本の中の食べ物①
19. 《演習》" ④：" ②
20. 《演習》" ⑤：あぶりだし
21. 《演習》離乳食①
22. 《演習》" ②
23. 《演習》行事食：クリスマス
24. 《演習》行事食：節分
25. 国家試験・卒業試験対策①
26. 《演習》行事食：ひなまつり①
27. 《演習》行事食：" ②
28. 《演習》食物アレルギーの子どものおやつ①
29. 《演習》" ②
30. 国家試験・卒業試験対策②

事前・事後学習の内容

- ・教科書の該当範囲を事前に読んでおく。
- ・テーマごとに与えられた問題について、まとめる。

評価の方法・基準

- ・期末試験（50%）、課題レポート（30%）、演習レポート（20%）

教科書

- ・『子どもの食と栄養』（北大路書房）

備考

授 業 科 目	健康Ⅱ			担 当 者	樋野本 順子		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 2 年	時 間 数 (単位数)	15 (1)

授業の目的・内容

領域「健康」に示されたねらい、及び内容、配慮事項について学習したことを踏まえ、現代社会の中で、幼児が心身ともに、健康な生活を営むために大切なことは何か、理解を深めることを目的とする。

到達目標

- ・乳幼児のこころとからだの健康について必要な知識とその指導、援助の技術・技能の獲得をめざす。

授業計画

【前期】

1. 幼児の心身の健康
2. 家庭との連携
3. 身体的な発達と集団生活
4. 精神的 "
5. 社会的 "
6. 指導計画①
7. " ②
8. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・乳幼児の健康に関する情報を収集する。
- ・実習で乳幼児の健康についてどのような教育や環境整備が行われているか学び、まとめておく。

評価の方法・基準

- ・期末試験（70％）積極的な授業への取り組み（30％）

教科書

- 『健康 理論編』（保育出版社）
- 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）
- 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』（厚生労働省）

備考

授業科目	言葉Ⅱ			担当者	河地 あすか		実務経験
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	保育2年	時間数 (単位数)	15 (1)

授業の目的・内容

1年次の言葉（指導法）の学びを基礎に、保育内容領域「言葉」の理解を深め、保育における言葉の発達を理解する。また、各年齢での言葉の育ちの特徴と配慮が必要とされる子どもや家庭への「言葉」の支援について学ぶ。言葉を育てるための児童文化財を知り、指導計画の立案と実践を具体的に理解し、子ども達の「言葉」の豊かな育ちを支える方法を創造できるようになることを目指す。

到達目標

- ・領域「言葉」について理解を深める。
- ・各年齢の言葉の発達について理解する。
- ・言葉を育てる児童文化財への理解を深め、指導方法を習得する。

授業計画

【後期】

1. 言葉とは何か
2. 0～3歳未満児の言葉
3. 3歳以上児の言葉
4. 領域「言葉」ねらいと内容の理解
5. 気になる子どもへの言葉の発達支援
6. 日本語を母国語としない子どもの言葉の発達
7. 言葉を育む児童文化財と指導計画の実際
8. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・領域「言葉」ねらいと内容について熟読しておく
- ・乳幼児期の様々な児童文化財について調査する
- ・保育現場での実習を通して、子ども達の言葉の育みに興味関心をもち理解を深める。

評価の方法・基準

- ・出席状況、授業態度（20%）・筆記試験（50%）・実技試験（30%）

教科書

- ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』
- ・厚生労働省『保育所保育指針解説』
- ・内閣府『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』
- ・プリント配布

備考

授業科目	音楽表現技術			担当者	松本 愛		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	前期	学科・学年	保育2年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

保育・幼児教育現場で必要とされる弾き歌い実践力、即興能力(子どもの状況に合わせ奏する対応力)、表現力などの向上のため、毎週レッスンと小テストを行い、個々に合わせた練習のやり方で演奏技術の習得を目的とする。

- ・季節や生活に合わせた弾き歌い曲を練習し習得する。
- ・ソナチネ(1曲以上)を丁寧に譜読みし後期の発表に向けて練習する。

到達目標

保育者として、現場に必要なピアノ技術やコードを使って奏する応用力や、弾き歌い技術の向上・習得を目標とする。

- ・楽譜を読み、音程や音階を理解し歌唱やピアノで表現することができる。
- ・コードで自由に伴奏を付け歌い示すことができる。・ソナチネを丁寧に譜読みし演奏することができる。

授業計画

【前期】

1. レッスン(バイエル・ソナチネ・弾き歌い曲) ①、小テスト①、コード①、歌唱①
2. " " ②、 " ②、 " ②、 " ②
3. " " ③、 " ③、 " ③、 " ③
4. " " ④、 " ④、 " ④、 " ④
5. " " ⑤、 " ⑤、 " ⑤、 " ⑤
6. " " ⑥、 " ⑥、 " ⑥、 " ⑥
7. " " ⑦、 " ⑦、 " ⑦、 " ⑦
8. " " ⑧、 " ⑧、 " ⑧、 " ⑧
9. " " ⑨、 " ⑨、 " ⑨、 " ⑨
10. " " ⑩、 " ⑩、 " ⑩、 " ⑩
11. " " ⑪、 " ⑪
12. " " ⑫、復習①
13. " " ⑬、 " ②
14. " " ⑭、 " ③、発表
15. まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

- ・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習などを繰り返すこと。
- ・ゆっくり丁寧な練習を心がける。

評価の方法・基準

- ・実技試験(課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>) (85%)
- ・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト (15%)

教科書

- ・『声楽<声楽教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部) ・『音楽<ピアノ教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)
- ・『保育実用書シリーズ こどものうた200』(チャイルド社) ・『保育実用書シリーズ 続こどものうた200』(チャイルド社)
- ・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜) ・『ソナチネアルバム』(全音楽譜)、プリント配布

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、その経験を活かして音楽表現方法・技術を指導する。

授業科目	幼児と造形表現			担当者	三根 和浪		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育2年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

幼児がいろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもったり、感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しんだり、生活の中でイメージ豊かに様々な表現を楽しんだりする適切な指導・援助ができるよう、造形活動における表現及び鑑賞を通して美的感覚を高め創造力を豊かにすると共に、幼児の造形活動に関わる基礎的・基本的な知識・技能を習得する。

そのため、楽しみながら生活の中にある色、形、手触りなどに気付いたり感じたりすると共に、感じたことや考えたことなどを自由にかいたりつくったり、工夫して遊んだり飾ったりなどする。

到達目標

- ・造形活動の基礎的・基本的な知識・技能を説明したり発揮したりすることができる。
- ・生活の中にある色、形、手触りなどに気付いたり感じたり、造形活動を工夫したりすることができる。
- ・かいたりつくったりなどする造形活動を楽しむことができる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション 鉛筆で表現 ……図画工作と幼児造形活動について
2. 五月の造形① (小さな鯉のぼり) ……封筒、いろがみによる造形
3. " ② (大きな鯉のぼり) ……封筒、いろがみ、模造紙による造形
4. 描画材料の特徴と用具の実際 ……割り箸ペン・クレヨン・パス・コンテ等 各種紙
5. 造形について 形態(点・線・面) ……特徴と性質を生かしての構成
6. 色彩について 色の三要素・色の性質・特徴等 ……演習を通しての理解
7. 七夕の造形① (七夕飾り) ……いろがみと色画用紙による造形
8. " ② (七夕の展示) ……模造紙と色画用紙による造形
9. 形態の構成 構成の原理 ……調和・類似・均衡・相称・律動・階調等の具体例
10. デザイン 平面構成 ……個人作品制作
11. 絵画 立体の見方と描き方 画面構成 ……演習を通しての理解
12. 水彩画 透明水彩・不透明水彩・淡彩 ……小作品を通して理解
13. 立体で表現 基礎・基本 ……ペーパークラフト・飾るもの等
14. 造形遊び ……遊びの工夫・材料を生かす・廃材の活用
15. 鑑賞とまとめ ……幼児の作品評価とまとめ

事前・事後学習の内容

- ・毎時、授業終了時に本時のまとめの小レポートを作成するので、このリフレクションを踏まえ、次週までの復習と予習を通して授業時に明らかになった課題などについて克服したり準備したりする。

評価の方法・基準

- ・造形活動の表現及び鑑賞に関する基礎的・基本的な知識・技能 (30%)、思考・判断 (40%)、造形活動に取り組む関心・意欲・態度 (30%) を総合的に評価する。

教科書

- ・花篤實・岡田愨吾 編著『新造形表現 実技編』(三晃書房)
- ・緒方章嗣『図画工作』(近畿大学九州短期大学)

備考

授業科目	幼児と健康			担当者	樋野本 順子		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育2年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

乳幼児の発達を学び、運動遊びの重要性について理解を高めていく。幼児期の運動遊びを実践的に体験し、保育者として運動遊びを指導していく上において必要な知識・技術を修得する。運動遊具の使用方法を理解し、活動のバリエーションを広げていく。

到達目標

- ・現代社会において幼児期の運動遊びの意義を説明できる。
- ・様々な運動遊びや補助ができる。
- ・幼児の運動遊びの「ねらい」を実現する効果的な指導方法を習得する。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 運動遊びの意義
3. 保育実践の場における運動遊び①
4. " ②
5. " ③
6. " ④
7. " ⑤
8. " ⑥
9. " ⑦
10. " ⑧
11. " ⑨
12. " ⑩
13. 幼児の運動と安全①
14. " ②
15. " ③、まとめ

体操・マット・縄跳び
手具・身近な用具を使って
運動用具を使って

事前・事後学習の内容

- ・授業は、指定した服装、身だしなみで受けること。
- ・乳幼児の発達について理解しておくこと。
- ・幼児を観察したり、実際に触れ合ったりすることを通して乳幼児の発達について理解を深めておくこと。
- ・実習での運動遊びを体験し、活動内容や指導法を整理しておくこと。

評価の方法・基準

- ・各運動遊び・指導方法への取り組み (80%)、提出物 (20%)

※体育館を使用する場合があります。時間変更になる場合は事前に知らせます。

教科書

- ・プリント

備考

授業科目	幼児体育			担当者	樋野本 順子		実務経験
履修方法	講義	期 間	後期	学科・学年	保育2年	時 間 数 (単位数)	15 (1)

授業の目的・内容

乳幼児の発達を学び、運動遊びの重要性について理解を高めていく。保育者として運動遊びを指導していく上において必要な知識・技術を修得する。運動遊具の使用方法を理解し、活動のバリエーションを広げていく。

到達目標

- ・現代社会において幼児期の運動遊びの意義を説明できる。
- ・幼児の運動遊びの「ねらい」を実現する効果的な指導方法を理解する。

授業計画

【後期】

- | | | |
|--------------------|-----------|--|
| 1. オリエンテーション | これからの幼児体育 | |
| 2. 幼児の運動遊びについて考える | | |
| 3. 保育実践の場における運動遊び① | | } 体操・マット・縄跳び
手具・身近な用具を使って
運動用具を使って及び鬼遊びの
援助、留意点について |
| 4. // | ② | |
| 5. // | ③ | |
| 6. // | ④ | |
| 7. // | ⑤ | |
| 8. まとめ | | |

事前・事後学習の内容

- ・乳幼児の発達について理解しておくこと。
- ・観察や実際に幼児と触れ合ったりすることを通して発達段階について理解を深めておく。
- ・実習で運動遊びを体験し、活動内容や指導法を整理しておく。

評価の方法・基準

- ・期末試験 (70%)、提出物 (30%)

教科書

- ・『幼児体育Ⅱ』（近畿大学九州短期大学）
- ・プリント

備考

授 業 科 目	言 語 表 現			担 当 者	樋野本 順子	実務経験	
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 2 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

- 乳幼児の発達に即した言語表現に関する知識や技術を習得する。
- 児童文化の重要性を認識し、子どもの遊びや保育環境との結びつきについて学習する。
- 言語表現活動（絵本、紙芝居、パネルシアター、ストーリーテリング等）の知識や技術を習得する。

到達目標

- ・保育における言語表現について、基礎的知識、技術を身に付ける。
- ・保育の中の言語表現活動の意義を理解する。
- ・絵本を題材に言語表現活動の教材作りに取り組み実践する。

授業計画

【前期】

1. 豊かなことばを育む保育者の役割と環境構成
2. 子ども（乳幼児）のことばの発達と絵本・紙芝居
3. 絵本・紙芝居を活用したペープサート、パネルシアターづくり①
4. " " " " ②
5. " " " " ③
6. " " " " ④
7. 発表
8. 視覚的配慮 絵本の紹介 環境構成についての発表
9. 言葉あそび教材づくり①
10. " " " " ②
11. " " " " ③
12. " " " " ④
13. 発表①
14. " " " " ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・様々な絵本に日頃から接しておく。
- ・教材作りに必要な廃材や材料を集めておく。
- ・発表する前に練習を充分におこなっておく。
- ・発表時は、指定した服装、身だしなみで受けること。

評価の方法・基準

- ・言語表現活動のための教材作成と実演と取り組み（80%）、レポート（20%）

教科書

- ・『保育者のための言語表現の技術』（萌文書林）

備考

授 業 科 目	障 害 児 保 育			担 当 者		実務経験	
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 2 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

近年、保育所や幼稚園において、特別な支援を要する子どもが数多く在籍しており、全ての保育者に障害児保育に関する専門性が必要とされてきている。そこで本講では、多様化する保育ニーズに対応し得るインクルーシブ保育の実践者を目指して、障害児保育の理念や障害知識と具体的支援方法などについて、理解と認識を深めることを目的とする。

到達目標

- ・様々な障害の知識と支援方法について修得することができる。
- ・障害のある子どもの個別支援計画やインクルーシブ保育体制について理解することができる。
- ・障害のある子どもの保護者支援や関係機関との連携について説明することができる。

授業計画

【前期】

1. 障害児保育とは（乳幼児期の発達課題と障害特性）
2. 障害の発生と原因・発達障害の理解と支援
3. 自閉症スペクトラム障害 //
4. 注意欠如・多動性障害（ADHD） //
5. 限局性学習障害（LD） //
6. 発達性協調運動障害（DCD） //
7. 知的障害児の理解と支援
8. 視覚障害児 //
9. 聴覚障害児 //
10. 言語障害児 //
11. 肢体不自由児 //
12. 重症心身障害児 //
13. インクルーシブ保育支援体制
14. 家庭との連携・障害受容過程（保護者支援）
15. 個別の保育計画と評価・就学指導

事前・事後学習の内容

- ・次回の授業について、提示された教科書の内容を事前に読んで整理しておく。
- ・授業終了時に示す課題について復習する。

評価の方法・基準

- ・授業への参加・態度（30%）、課題・レポート（20%）、期末試験（50%）により総合的に評価する。

教科書

- ・『よくわかる障害児保育』（ミネルヴァ書房）

備考

授 業 科 目	子 育 て 支 援 I			担 当 者	藤 原 久 礼		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 2 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

- 保護者に対する相談、助言、情報提供による支援方法を理解する。
- 子育て支援の内容・方法・技術を理解する。
- 子どもや保護者の状況・状態の把握から、アセスメント、支援計画、支援、評価のプロセスを理解する。

到達目標

- ・保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。
- ・保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

授業計画

【後期】

保育士の行う子育て支援の特性

1. 子どもの保育とともに行う保護者の支援
2. 日常的・継続的な関りを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
3. 保護者や家庭の抱える支援ニーズへの気付きと多面的な理解
4. 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供

保育士の行う子育て支援の展開

5. 子ども及び保護者の状況・状態の把握
6. 支援の計画と環境の構成
7. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス
8. 職員間の連携・協働
9. 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働

保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）

10. 保育所等における支援
11. 地域の子育て家庭に対する支援
12. 障害のある子ども及びその家庭に対する支援
13. 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援
14. 要保護児童等の家庭に対する支援
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業内容をふまえ、授業のまとめとして課題レポートの提出をする。

評価の方法・基準

- ・筆記試験（50%）、レポート提出（35%）、授業などの取り組み（15%）など総合的に評価する。

教科書

- ・なし。授業中に適宜プリントを配布する

備考

授業科目	教育相談			担当者	河地 あすか		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育2年	時間数 (単位数)	30 (2)

授業の目的・内容

幼児、児童が自己理解を深め、好ましい人間関係を築きながら、集団の中で生活する力を育て、成長を支援する教育相談についての基本的な知識を学ぶ。特に、一人一人の発達状況や個々の特徴や課題を捉え支援をしていくために必要なカウンセリングの意義、理論や方法等に関する知識や技法を学び、身に付ける。また、構成的グループエンカウンターに注目し、体験を通して、問題を未然に予防するための実践方法を理解する。

到達目標

- ・教育相談の意義と理論を理解している。
- ・様々な問題を抱える幼児、児童、保護者の理解と具体的な対応について説明できる。
- ・カウンセリングの姿勢や技法、カウンセリングマインドについて説明できる。

授業計画

【前期】

1. 教育相談とは
2. 教育相談と心理学
3. 子どもを理解する①
4. " ② (自閉症・発達障害)
5. 保護者の支援① (養育困難・虐待の疑い)
6. " ② (精神疾患・障害をもつ子どもの保護者)
7. カウンセリングとカウンセリングマインド
8. 相談にのるための基本姿勢・技法①
9. " ②
10. その他の技法
11. 構成的グループエンカウンターとは
12. " の実際
13. 園内の教育相談体制と専門機関との連携
14. 保育者のメンタルヘルス
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業中、授業後にワークシートを記入し理解を深めること。
- ・レポートを提出すること (2設題)

評価の方法・基準

- ・レポート提出① (15%) (3.4.5.6)、レポート提出② (15%) (7.8.9.10)
- ・筆記試験 (60%)
- ・受講態度、出席状況 (10%)

教科書

- ・『子育て支援カウンセリング 一幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポートー』(図書文化)
- ・プリント配布

備考

授業科目	保育実習Ⅰ（保育所）			担当者	河地 あすか		実務経験
履修方法	実習	期間	後期	学科・学年	保育2年	時間数 （単位数）	90 （2）

授業の目的・内容

保育実習に参加する学生は、すでに開講されている保育実習Ⅰ事前事後指導（保育所）を必ず履修しておく必要がある。保育実習（保育所）では、保育現場で、実際に乳幼児と関わり、保育士の姿を観察したり補助的な役割を果たしたりすることで、乳幼児の豊かな成長をいかに援助すべきかを、実践を通して体得していくことを目的とする。

到達目標

- ・乳幼児との積極的な関わりを通して、乳幼児理解に努める。
- ・保育士の幼児に対する援助の在り方を学ぶ。
- ・実習日誌を毎日記録し提出する。

授業計画

《実習（1日目～4日目）》

- ・保育所の一日の流れの理解（乳児・1、2歳児）
- ・各年齢における発達の理解①
- ・部分実習指導案の立案と検討
- ・保育士の職務内容の理解①
- ・保育士の関わり、援助方法を具体的に学ぶ①

《実習（5日目～8日目）》

- ・保育所の一日の流れの理解（1、2歳児・3歳以上児）
- ・各年齢における発達の理解②
- ・保育技術の習得
- ・部分実習指導案の立案と検討
- ・各年齢における発達と関わり方の理解（前半の反省と課題・担当者からの指導助言より）
- ・保育士の関わり、援助方法を積極的に学ぶ（前半の反省と課題・担当者からの指導助言より）
- ・保育士の職務内容の理解②
- ・保育士の関わり、援助方法を具体的に学ぶ②
- ・実習1週目の振り返り、反省、課題
- ・部分実習指導案の実践

《実習9日目～12日目》

- ・保育所の一日の流れの理解（3歳以上児）
- ・乳幼児の理解と積極的な関わりと工夫、実践
- ・保育士の関わり、援助方法を積極的に学ぶ（前半～半ばの反省と課題・担当者からの指導助言より）
- ・部分実習指導案の実践
- ・保育士の保育・教育に対する思いや熱意の理解
- ・反省会・自己課題の明確化（実習全体の反省と課題）
- ・保育士の職務内容の理解③

事前・事後学習の内容

- ・実習先の教育方針や目的を理解して実習に臨むこと。
- ・保育所保育指針を読み、各年齢の発達の特徴を理解しておきましょう。
- ・実習中、実習後の学びや反省等は具体的に書き出しておきましょう。

評価の方法・基準

- ・実習施設による実習評価を基準とする（80%）
- ・実習日誌の内容、実習事後レポートの内容（20%）
- ・実習中に実習生としてふさわしくない行動や2日連続して欠席した場合は不可とする。

教科書

- ・『幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き』（溪水社）、『保育の基本用語』（わかば社）
- ・『知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』（同文書院）
- ・『保育所保育指針』（フレーベル館）・『保育所保育指針解説（厚生労働省）』（フレーベル館）

備考

授 業 科 目	保育実習事前事後指導 I (保育所)			担 当 者	河地 あすか		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 2 年	時 間 数 (単 位 数)	30 (1)

授業の目的・内容

保育実習の事前事後指導を行う授業である。保育実習に参加する学生は必ず受講をしなければならない。

事前指導では、保育実習が円滑に実践できるように、保育実習の意義や概要、実習の心構えや準備、実習に臨む基本姿勢、日誌・指導案の書き方等を学ぶ。また、ねらいや目標をもって、実習に取り組むことができるようにする。事後指導では、実習の学習内容を振り返り自己課題の発見に努める。

到達目標

- ・実習の意義と目的を理解している。
- ・実習生としてふさわしい姿勢や態度を身に付けることができる。
- ・実習日誌、指導案の書き方が理解できる。

授業計画

【後期】

1. 保育実習の概要
2. 保育実習の意義と目的
3. 乳幼児の発達理解
4. 保育所の一日の流れと保育士の職務内容
5. 実習生としての心構え①
6. " ②
7. 実習日誌の書き方① (乳児)
8. " ② (1歳～3歳未満児)
9. " ③ (1歳～3歳未満児)
10. " ④ (3歳以上児)
11. 部分実習の内容と方法① (乳児・1歳～3歳未満児)
12. " ② (3歳以上児)
13. 指導案の書き方
14. 実習報告会
15. まとめと課題

事前・事後学習の内容

- ・実習に必要な姿勢や態度は日常生活から取り組むことで身に付きます。授業で学んだことを実践してみましょう。
- ・ボランティア活動に積極的に参加し子どもや保護者と関わってみましょう。
- ・日頃から親子に関心をもって、保護者や子どもの様子を観察してみましょう。

評価の方法・基準

- ・出席状況 (40%)、受講態度・報告会姿勢 (30%)、レポート提出 (30%)

教科書

- ・『幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き』(溪水社)・『保育の基本用語』(わかば社)
- ・『保育所保育指針解説本 (厚生労働省編)』フレーベル館
- ・プリント配布

備考

授 業 科 目	保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）			担 当 者	樋野本 順子		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 2 年	時 間 数 （ 単 位 数 ）	3 0 （ 1 ）

授業の目的・内容

この科目は初めに保育実習（施設）の意義・目的・内容について理解していく。実習前にすべきこと、児童福祉施設の具体的役割の理解、実習記録の書き方、指導計画案の作成、実習後にすべきことを事例に基づいて行っていく。

到達目標

- ・保育実習（施設）に臨む心構えをつくる。
- ・実習日誌の書き方・指導案の知識及び技術を身に付ける。
- ・実習に向けて課題及び目標を明確にする。

授業計画

【後期】

1. 施設実習に関する基礎理解と諸注意①
2. 施設の役割と機能①
3. " ②
4. 実習記録の書き方①
5. " ②
6. 指導案作成 ①
7. " ②
8. 面 談①
9. " ②
10. 模擬保育 ①
11. " ②
12. " ③
13. " ④
14. " ⑤
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・教材や・部分指導の準備を行う。
- ・児童福祉施設の役割、種類、内容についての事前学習。
- ・実習施設における実習目標、課題、学習計画に沿って、実習に向けた準備。

評価の方法・基準

- ・授業への積極的参加（50%）、模擬保育（40%）、指導案・レポート（10%）

教科書

- ・『施設実習の手引き』（溪水社）
- ・『新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド第二版』（同文書院）

備考

授業科目	教育実習 I			担当者	河地 あすか		実務経験
履修方法	実習	期 間	前期	学科・学年	保育2年	時 間 数 (単位数)	90 (2)

授業の目的・内容

教育実習 I に参加する学生は、1年次に開講されている教育実習事前事後指導 I を必ず履修しておく必要がある。教育実習 I では、子どもと実際に関わりながら子どもの豊かさや子どものもつ計り知れない力に触れる機会をもち、幼稚園教諭の姿を観察したり補助的な役割を果たしたりすることで、保育・教育の専門的な知識や技術、やりがいを、実践を通して体得していくことを目的とする。

到達目標

- ・ 幼児との積極的な関わりを通して、幼児理解に努める。
- ・ 幼稚園教諭の幼児に対する援助の在り方を学ぶ。
- ・ 実習日誌を毎日記録し提出する。

授業計画

《教育実習（1日目～3日目）》

- ・ 幼稚園の一日の流れの理解
- ・ 各年齢における幼児の発達の理解①
- ・ 部分実習指導案の立案と検討
- ・ 幼稚園教諭の職務内容の理解
- ・ 幼稚園教諭の指導、援助方法を具体的に学ぶ①

《教育実習（4日目～6日目）》

- ・ 各年齢における幼児の発達の理解②
- ・ 保育技術の習得
- ・ 部分実習指導案の立案と検討
- ・ 各年齢における幼児の発達と関わり方の理解（前半の反省と課題・担当者からの指導助言より）
- ・ 幼稚園教諭の指導、援助方法を積極的に学ぶ（前半の反省と課題・担当者からの指導助言より）
- ・ 幼稚園教諭の指導、援助方法を具体的に学ぶ②
- ・ 実習1週目の振り返り、反省、課題
- ・ 部分実習指導案の実践

《教育実習7日目～10日目》

- ・ 幼児の理解と積極的な関わりと工夫
- ・ 幼稚園教諭の指導、援助方法を積極的に学ぶ（前半～半ばの反省と課題・担当者からの指導助言より）
- ・ 部分実習指導案の実践
- ・ 幼稚園教諭の保育・教育に対する思いや熱意の理解
- ・ 反省会・自己課題の明確化（実習全体の反省と課題）

事前・事後学習の内容

- ・ 実習先の教育方針や目的を理解して実習に臨むこと。
- ・ 教材研究をして部分実習指導案を立案しておきましょう。
- ・ 実習中、実習後の学びや反省等は具体的に書き出しておきましょう。

評価の方法・基準

- ・ 実習施設による実習評価を基準とする（80%）
- ・ 実習日誌の内容、実習事後レポートの内容（20%）
- ・ 実習中に実習生としてふさわしくない行動や2日連続して欠席した場合は不可とする。

教科書

- ・ 『幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き』（溪水社）
- ・ 『幼稚園教育要領』（フレーベル館）・『幼稚園教育要領解説（文部科学省）』（フレーベル館）

備考

授業科目	音楽(応用)			担当者	松本 愛		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育2年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

保育・幼児教育現場で必要とされる弾き歌い実践力、即興能力(子どもの状況に合わせて奏する対応力)、表現力の完成を目指す。毎週レッスンと小テストを行い、個々に合った練習のやり方で演奏技術の向上を目的とする。

- ・季節や生活に合わせた弾き歌い曲を練習し習得する。
- ・ソナチネ(1曲以上)を丁寧に譜読みし弾き込み発表する。

到達目標

保育者として、現場に必要なピアノ技術やコードを使って奏する応用力、弾き歌い技術の習得・完成を目標とする。

- ・音程や音階を理解し、状況に合わせて歌唱やピアノで子どもたちを導くことができる。
- ・自由に伴奏を付け歌い示すことができる。
- ・ソナチネを丁寧に譜読みし表現力豊かに演奏することができる。

授業計画

【後期】

1. レッスン(バイエル・ソナチネ・弾き歌い曲) ①、小テスト①、歌唱①、コード①
2. " " ②、" ②、" ②、" ②
3. " " ③、" ③、" ③、" ③
4. " " ④、" ④、" ④、" ④
5. " " ⑤、" ⑤、" ⑤、" ⑤
6. " " ⑥、" ⑥、" ⑥、" ⑥
7. " " ⑦、" ⑦、" ⑦、" ⑦
8. " " ⑧、" ⑧、" ⑧、" ⑧
9. " " ⑨、" ⑨、" ⑨、" ⑨
10. " " ⑩、" ⑩、" ⑩、" ⑩
11. " " ⑪、復習①
12. " " ⑫、" ⑫
13. " " ⑬、" ⑬
14. " " ⑭、" ⑭、発表
15. まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

- ・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習 などを繰り返すこと。
- ・ゆっくり丁寧な練習を心がける。

評価の方法・基準

- ・実技試験(課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>)(85%)
- ・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト(15%)

教科書

- ・『声楽<声楽教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)、『音楽<ピアノ教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)
- ・『保育実用書シリーズ こどものうた200』(チャイルド社)、『保育実用書シリーズ 続こどものうた200』(チャイルド社)
- ・『ソナチネアルバム』(全音楽譜)、『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜)、プリント配布

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、即現場に役立つ音楽の実践を指導する。

授業科目	障害の理解			担当者	河口 幸貴		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育2年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

保育現場に様々な障害のある児童がいることから、保育士として必要な障害に関する知識・技術等を理解することを目的とします。実生活に関わる制度概要や具体的な支援の在り方についても学び、障害のあることが保育・就学・就労などライフサイクルにどのように影響するか、理解を深めます。

到達目標

・様々な障害特性を理解し、障害のある人の生活と支援について具体的に捉えることができる。

授業計画

【後期】

1. 「障害の理解」の概要 各自の生活体験に基づく自己の障害認識の気付き
2. 障害者へのアプローチ変遷 現場で働く職種
3. 身体障害の理解と支援①（視覚障害，聴覚障害）
4. " ②（肢体不自由，内部障害，その他）
5. 知的障害の理解と支援
6. 精神障害・発達障害の理解と支援
7. ノーマライゼーション理念とライフサイクル
8. 障害のある子の親（保護者）への支援
9. 地域における支援ネットワークの構築と他職種連携
10. 個別支援計画①アセスメント
11. " ②支援計画検討
12. 障害者福祉制度の動向と関連領域
13. 障害者福祉サービスの実際
14. 合理的配慮と虐待防止
15. まとめ

事前・事後学習の内容

・講義のはじめに前回内容の学習確認シートを実施するので、①講義内容のポイント整理，②講義内容に対する各自の気づき・感想，を整理・復習しておくこと。

評価の方法・基準

・学期末テスト（50%）、中間小テスト（30%）、受講姿勢による加減点（各回学習確認含）（20%）

教科書

・『障害福祉と関連領域』（河口社会福祉士事務所）

備考

授 業 科 目	教育実習事前事後指導Ⅱ			担 当 者	河地 あすか		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 2 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

教育実習での学びを受けて、幼稚園教諭免許取得に必修である教育実習Ⅱの事前事後指導である。教育実習Ⅱに参加する学生は必ず受講しなければならない。事前指導では、教育実習を振り返り教育実習Ⅱに向けて明確な課題をもち意欲的に実習に取り組めるよう指導する。事後指導では、教育実習Ⅱを振り返り、集団討議、合同報告会等を実施し、幼稚園教諭としての指導援助の在り方、環境の構成、家庭や地域との連携、資質と能力等、専門的な知識・技術の習熟を目指す。

到達目標

- ・教育実習の課題を明確化できる。
- ・教育実習Ⅱの意義と目的を理解できている。
- ・教育実習Ⅱの学びや反省、課題を明確化し、報告をすることができる。

授業計画

【前期】

1. 教育実習の振り返りと反省
2. 教育実習の課題の明確化と教育実習Ⅱの目標設定
3. 教育実習Ⅱの意義と目的
4. 幼稚園教諭の職務内容を理解する
5. 幼稚園教諭にふさわしい姿勢や態度を理解する
6. 実習日誌の書き方①
7. " ②
8. 部分実習の内容と方法、指導案立案①
9. " ②
10. 学内オリエンテーション
11. 実習を振り返る①（自己評価と個人面談）
12. " ②（自己課題の明確化）
13. 教育実習・教育実習Ⅱの総括・まとめ
14. 実習報告会①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・教材研究や指導案作成に積極的に取り組むこと
- ・教育実習での自己課題を明確化し達成のために教育実習Ⅱにどのように取り組むか意識を高めておく
- ・乳幼児関連のニュースや新聞記事に興味関心をもち保育・教育について理解を深めておくこと

評価の方法・基準

- ・出席状況（50%）、実習報告（30%）、提出物（20%）

教科書

- ・『幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き』（溪水社）
- ・『知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』（同文書院）
- ・『幼稚園教育要領』（フレーベル館）・『幼稚園教育要領解説（文部科学省）』（フレーベル館）

備考

授業科目	指導案実践演習Ⅱ			担当者	河地 あすか		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	前期	学科・学年	保育2年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

指導案実践演習Ⅰでの学びを基礎に、グループでの模擬保育に取り組み、実践力の向上に努める。模擬保育後の学び・気づき・反省等を参加学生全員がワークシートに記入し、それを分析・考察する。その結果を基に、新たな指導案を作成し報告することを通して、環境構成や乳幼児の活動、保育者の援助、留意点等の細かな部分まで配慮しながら保育を実践する力を身に付けていく。また、保育を展開する上で、人間関係やチームワークの大切さを体得する。

到達目標

- ・グループメンバーで協力しながら模擬保育の事前準備ができる。
- ・保育者としてふさわしい姿勢や態度で、模擬保育ができる。
- ・反省、評価を基に、指導案を改善し、実践できる。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス
2. 指導案実践演習Ⅰの振り返り
3. 模擬保育①
4. " ②
5. " ③
6. " ④
7. " ⑤
8. " ⑥
9. 模擬保育ワークシート分析・考察
10. 模擬保育分析・考察・指導案の報告①
11. " ②
12. " ③
13. " ④
14. " ⑤
15. " ⑥

事前・事後学習の内容

- ・グループメンバーと話し合う時間を作り、事前に指導案を作成し教材準備をすること。
- ・毎模擬保育後に配布するワークシートを記入し提出する。
- ・教育実習での学びや子どもの様子を書き出し、参考にすること。

評価の方法・基準

- ・模擬保育 (20%)、グループ演習に取り組む姿勢と協力的態度 (20%)、報告姿勢と報告内容 (20%)
- ・提出物 (指導案) と教材準備 (20%)、出席状況 (20%)

教科書

- ・使用しない

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、指導計画の立案・実践方法について模擬保育を通して指導する。

授 業 科 目	子育て支援Ⅱ			担 当 者	藤原 久礼		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 2 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

保育士の相談援助技術について、基礎となる理論・知識を理解したうえで、事例研究を通して、実践的に習得する。

子どもと子どもを取り巻く環境とそこで生じている問題を理解するためのアセスメント技術を保育現場・地域社会の現状を理解し、実践的に有効な支援計画を立案する能力の習得を目指す。

到達目標

- ・子どもや保護者を支援する方法であるソーシャルワークの価値・知識・技術について理解する
- ・子どもと子どもを取り巻く環境とそこで生じている問題を理解するためのアセスメント・プランニング技術を習得し、各自が事例に基づいて、マイクロ・メゾ・マクロを考慮したアセスメントと支援計画を作成できる。
- ・事例を通して支援に必要となる法律や制度、教育・福祉サービスを含む社会資源の理解を深め、それらを実践的に活用するための方法を検討できる。
- ・保育士や保育関係者、行政担当者等の他職種の役割や機能を理解し、子どもと保護者、児童福祉施設、地域社会を含めたチームアプローチを検討できる。

授業計画

【後期】

ソーシャルワークの価値・知識・技術、援助過程について理解する

1. ソーシャルワークの概要を理解する（マイクロ、メゾ、マクロと援助方法）
2. " を支える価値・知識・技術について理解する
3. " のマイクロレベルの援助過程を理解する ①
4. " " ②

子どもと子どもを取り巻く環境を理解する

5. 事例検討 ①（子ども及び保護者の状況・状態を把握する）
6. " ②（子どもと保護者のジェノグラムを作成する）
7. " ③（子どもと環境とのエコマップを作成する）
8. " ④（子どもと保護者が抱える生活課題をアセスメントする）

保育士が用いる社会資源について理解する

9. 養護を必要とする子どもの施設
10. 障がいがある子どもへの福祉施策、施設
11. 児童相談所・福祉事務所・保健所など子どもと保護者に関わる行政機関
12. 子どもと保護者に関わる地域社会の社会資源

子どもと保護者の支援方法とチームアプローチを理解する

13. 事例検討 ⑤（情報収集、アセスメント、援助計画の作成 ①）
14. " ⑥（ " ②）
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業内容をふまえ、授業のまとめとして課題レポートの提出をする。

評価の方法・基準

- ・レポート提出（50%）、授業などの取り組み（50%）など総合的に評価する。

教科書

- ・なし。適宜レジュメを配布する。

備考

授業科目	ボランティア活動Ⅱ			担当者	松本 愛		実務経験
履修方法	実習	期間	通年	学科・学年	保育2年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

ボランティア活動を通して、地域の企業や施設、地域の方々とのコミュニケーションをはかり役割や支援について考える。

乳幼児や障がい児者との関わりやその特性を理解し、今後の学習や子どもや支援に役立てる。また、職員同士の連携や役割分担・情報の伝達共有など、社会人としての在り方や保育者として必要な倫理観や専門職意識を養う。

前期2回、後期2回ボランティア活動に参加し、活動報告書を提出する。

到達目標

- ・乳幼児、障がい児者の特性を理解する。
- ・ボランティア活動の経験を通して、乳幼児や障がいのある人たちと関わる力を身に付ける。
- ・保育者としての専門的な倫理観と専門職としての意識を養い、社会人としての基礎を身に付ける。

授業計画

【通年】

1. オリエンテーション
2. ボランティア活動の心得とマナー、情報収集、依頼
3. 実習 (1回目) ①
4. " ②
5. 実習 (2回目) ①
6. " ②
7. ボランティア活動報告会①
8. まとめ①
9. 情報収集、依頼
10. 実習 (3回目) ①
11. " ②
12. 実習 (4回目) ①
13. " ②
14. ボランティア活動報告会②
15. まとめ②

事前・事後学習の内容

- ・ボランティア活動前後に対象者の特性を理解するためのまとめを行う。
- ・ボランティア活動の情報収集と申し込みを各自で行い、科目担当教員へ報告する。

評価の方法・基準

- ・活動の取り組み(60%)、ボランティア活動後の報告書などの提出物(40%)の総合評価。
- ・前期2回、後期2回のボランティア活動への参加を授業評価の必須とする。

教科書

- ・適時レジュメを配布する

備考

授業科目	就職実務Ⅱ			担当者	河地 あすか		実務経験
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	保育2年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

保育者は、乳幼児期の子ども達にとって重要な環境の一つであり多大な影響力をもっている。保育者は、日々子ども達の生活に感動をもたらし、育ちを支えていくという夢のある仕事であると同時に、責任の重い仕事であることを自覚する。また、保育者の専門性（知識・技術）を備えるだけでなく、社会人としての常識や優れた人間性を備えることができるよう、自分のありたい保育者像を探し求めつつ、自分自身の生活を見直しながら、自分自身の生活を豊かにできるよう生活の基礎を身に付ける。

到達目標

- ・社会人としての常識を理解する。
- ・日々の生活に感謝し、充実した生活を送ることができる。
- ・人の為に何ができるかを考え、自分にできることを見つけ取り組むことができる。

授業計画

【通年】

1. オリエンテーション
2. 生活力①
3. " ②
4. " ③
5. 保育・幼稚園ナビ①
6. " ②
7. 学ぶ力①
8. " ②
9. " ③
10. 保育・教育実習準備①
12. " ②
13. 就職活動に向けて①
14. " ②
15. " ③

事前・事後学習の内容

- ・日々の生活態度（言葉・行動）を意識する。
- ・クラス的环境作り・温かい雰囲気を中心掛ける。
- ・なりたい保育者像を想像し、実現のためにできることを見つける。

評価の方法・基準

- ・授業への積極的な取り組み(70%)、提出物(30%)

教科書

- ・『保育を支える生活の基礎』（萌文書林）

備考

授業科目	介護実務者研修Ⅰ			担当者	藤原 久礼		実務経験
履修方法	講義・演習	期間	通年	学科・学年	保育2年	時間数 (単位数)	230 (7)

授業の目的・内容

介護職員に求められる知識・技術を習得し、介護福祉士国家試験の受験資格を得るための介護実務者研修の修了資格の取得を目指す。

介護領域のうち、介護領域、医療的ケア領域を学ぶ。

介護過程Ⅲは5日間のスクーリングによる授業を行う。

到達目標

・質の高い介護サービスを安定的に提供していくことを目標に、基本的な介護提供能力の修得を目的とする。

授業計画（授業科目）

【通年】

- 1～5. 介護の基本Ⅰ
- 6～15. 介護の基本Ⅱ
- 16～25. コミュニケーション技術
- 26～35. 生活支援技術Ⅰ
- 36～50. 生活支援技術Ⅱ
- 51～60. 介護過程Ⅰ
- 61～73. 介護過程Ⅱ
- 74～97. 介護過程Ⅲ（スクーリング）
- 98～115. 医療的ケア

事前・事後学習の内容

- ・各教科目の教科書をよく読み、内容をよく理解し演習問題と
- ・各教科目の演習問題を解き内容を理解し、間違った箇所は教科書を見直し何度も演習問題に取り組む
- ・スクーリングで学んだ手技を何度も練習しマスターする。

評価の方法・基準

- ・科目ごとの演習問題を解き、科目認定試験に合格することによって、科目修了になる。
- ・授業への取り組み（25%）、各科目の試験（25%）、スクーリングによる実技試験（50%）による総合評価。

教科書

- ・『介護職員等実務者研修（450時間研修）テキスト 第1巻～第5巻』（中央法規）

備考

介護の基本Ⅰ～介護過程Ⅱまでを修了していなければ、介護過程Ⅲのスクーリングを受講することはできない。

スクーリングの遅刻は認めない。介護過程Ⅲのスクーリングは1日目から5日目まで順番に取得しなければならない。科目認定試験は各自行いすべての教科目に合格しなければならない。

3 年

授業科目	保育の心理学			担当者	岩佐 康弘		実務経験
履修方法	講義	期 間	前期	学科・学年	保育3年	時 間 数 (単位数)	30 (2)

授業の目的・内容

人は、受精した瞬間から死に至るまで様々な変化を遂げて発達していく。一生を見通して発達を学ぶことにより、一生の土台と言われる乳幼児期の意義を理解していきたい。同時に、青年期を生きる今の自分についても考えるきっかけを与えたい。この授業では乳幼児期のみならず、それ以降の各発達段階の特徴や課題について学習する。

到達目標

- ・教育心理学・発達心理学の研究成果に基づいて、生涯にわたる人間の育ちや発達について理解した上で、説明することができる。
- ・現代社会が抱える、乳幼児・児童・青年以降の発達に関わる問題について説明することができる。

授業計画

【前期】

1. 発達とは何なのか
2. 生命の芽生えから誕生まで
3. 認識の発達
4. コミュニケーションと人間関係の発達
5. 言語と遊びの発達
6. 人間関係の中で生まれる自己
7. 仲間の中での育ち
8. 学校での学び
9. 青年期の発達
10. 青年期から成人期の発達
11. 成人期以降の発達
12. 人生の振り返り
13. 発達におけるつまずき①
14. " ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・前回の講義資料を再度読んだ上で、講義にのぞむ。
- ・授業終了時に示す課題についてレポートを作成する。

評価の方法・基準

- ・学期末試験 (60%)、レポート課題 (30%)、提出物 (10%)

教科書

- ・講義資料を配布する。

備考

授 業 科 目	人 間 関 係 (指 導 法)			担 当 者	近畿大学九州短期大学 授業科目担当者		実務経験
	履 修 方 法	演 習	期 間		前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 3 年

授業の目的・内容

子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、領域「人間関係」の内容および意義について学修する。また、子どもが単に集団にうまく適応することのみを問題にするのではなく、「他者理解」を通して人の豊かなかかわりを経験することの意義を学ぶ。人との豊かなかかわりを育てる保育者としての役割について学習する。

到達目標

- ・ 学生が領域「人間関係」に関する保育内容および指導に関する知識・技術を習得する。
- ・ 学生が子どもの発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める。

授業計画

近畿大学九州短期大学での2日間のスクーリングで授業が行われます。

授業日程 5月15日(土)・16日(日) 9:00~12:45、13:45~17:30

※事前オリエンテーション有

※2日間の日程すべて受講が必須。この期間に受講出来なかった場合は別な日程で受講すること。

スクーリングとは、一定期間大学に通学し授業を受けることです。学問の理論と実際の研究及び人格の陶冶を図ることを趣旨とする大学教育の実現を目的としています。単位を修得することのみにとらわれることなく、講義時間以外は図書館で学習することが大切です。

事前・事後学習の内容

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針を熟読しておくこと。
- ・ 授業後、指示された課題をまとめて、提出すること。

※指定された服装、身だしなみで参加すること。

評価の方法・基準

- ・ 事前オリエンテーション・2日間のスクーリングを受講後課題(100%)

教科書

- ・ 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』(フレーベル館)

備考

授 業 科 目	幼 児 と 人 間 関 係			担 当 者	河 地 あ す か		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 3 年	時 間 数 (単 位 数)	1 5 (1)

授業の目的・内容

幼稚園教諭・保育士を目指すにあたり、領域「人間関係」の理論を習得し、実践力を養う。

到達目標

- ・ 幼児教育において育みたい資質・能力を理解する。
- ・ 領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。
- ・ 幼児の発達に即した主体的・対話的な学びを実現する保育を理解する。

授業計画

【前期】

1. 領域「人間関係」について
2. 子どもと取り巻く人間関係（家庭・地域社会）
3. 子どもの発達と人間関係
4. 特別な支援を必要とする子どもの人間関係
5. 「自立性」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」を育む
6. 協同的遊びと主体的対話「個」と「集団」
7. 小学校教育との接続 子どもの育ちと学び
8. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・ 次回授業までに、授業範囲のテキストを読んでおくこと。

評価の方法・基準

- ・ 授業態度、出欠状況（20%）、筆記試験（60%）、提出物（20%）

教科書

- ・ 『幼児と人間関係－幼稚園教諭・保育士をめざす』（同文書院）

備考

授業科目	乳児保育 I			担当者	樋野本 順子		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育3年	時間数 (単位数)	30 (2)

授業の目的・内容

児童福祉施設における3歳未満児の保育について、成長発達と発達課題、保育内容、保育実践の方法を学習し、子どものあるがままの姿をとらえ保育する力を養う。

3歳未満児の発達は人格形成の基礎が培われる極めて重要な時期である。したがって情緒の安定した生活の中で十分に自己が発揮でき、心身の発達がはかられなければならない。保育を学ぶには、子どもとふれあい、世話をし、遊び、語りあうなかで習得するものが多くあることを知り、共に育ちあう姿勢で学んで欲しい。

到達目標

- ・乳児保育の意義・目的及び役割について理解する。
- ・乳児保育の現状と課題について理解する。
- ・3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育についての知識・技術を習得する。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス・乳児保育の意義と目的
2. 乳児保育の役割と機能
3. 乳児保育における養護及び教育
4. 保育所における乳児保育
5. 3歳児未満児の発達と生活①
6. " ②
7. 3歳児未満児の遊びと環境①
8. " ②
9. 3歳児未満児の発達を踏まえたかわり①
10. " ②
11. 3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境
12. 職員間の連携・協働
13. 保護者との連携・協働
14. 関係機関との連携・協働
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・実習での乳幼児の世話を通して、困ったことや分からなかったことを整理して発表できるようにしておく。
- ・授業後の課題を次の授業までに提出する。
- ・レポートの設題を的確に理解し、把握してください。参考文献の学習を深め、キーワードを整理しつつ論を展開してください。参考文献や引用文献を明らかにしてください。自分の考えをまとめ、自分のことばでレポートを書いてください。

評価の方法・基準

- ・科目終末試験 (50%)、レポート (50%)

教科書

- ・小山朝子 編著『講義で学ぶ乳児保育』（わかば社）

備考

レポートは期日内に提出をすることが、期末試験受験要件となります。

授業科目	乳児保育Ⅱ			担当者	樋野本 順子		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育3年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

講義やDVDで乳児保育についての基礎知識を学ぶ。

乳児期の子どもへの対応や保護者支援としての配布物やお便りの作成を通して保育者としての基本施設を身に付けていく。

乳児の人形を使用し、着替えや日々のかかわり方等の実践を行う。

教材、指導案を準備し模擬保育を行う。

到達目標

- ・乳児保育の意義・目的及び役割について理解する。
- ・乳児・幼児前期の発達の特徴を理解し、適切な保育方法を考える。
- ・保護者と保育者、関係機関等の連携について考え、援助・支援方法を習得する。

授業計画

【後期】

1. ガイダンス・乳児保育の意義と目的
2. 乳児保育の現状と課題
3. 保育ニーズと乳児保育
4. 乳児の生活① (身辺ケア等)
5. " ②
6. 3歳児未満児の遊びと環境①
7. " ②
8. " ③
9. 3歳児未満児の発達を踏まえたかかわり①
10. " ②
11. 模擬保育①
12. " ②
13. " ③
14. " ④
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・実習での乳幼児の世話を通して、困ったことや分からなかったことを整理して発表できるようにしておく。
- ・教材を準備し模擬保育の指導案を立てる。
- ・

評価の方法・基準

- ・授業レポート・授業内実技テスト (50%)、教材準備・模擬保育 (50%)

教科書

- ・志村聡子、吉長真子『はじめて学ぶ乳児保育』(同文書院)

備考

授業科目	子どもの健康と安全			担当者	金光 久美		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育3年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

子どものあらゆる活動の基盤は「健康」である。保育者は子どもの発達を促す働きかけを絶えず行っているが、その中には当然「健康を守り育てること」が含まれている。保育現場では、子どもの健康状態を観察や測定によって正しく把握し、状態の急変(けがや病気)に適切に対処することが求められている。演習ではそのような知識・技術を可能な限り身につけること、また、知識・技術の必要性を認識し子どもの健康に関心を持つことをねらいとする。

到達目標

- ・子どものバイタルサインの測定方法、正常・異常が述べられる。
- ・子どもの擁護技術(排泄、おむつ交換、衣服の着脱方法、沐浴、調乳、口腔ケア、離乳食の与え方)ができる。
- ・子どもの応急処置法(罨法、包帯法含む)ができる。
- ・月齢に合わせた保健だよりが作成できる。
- ・月齢に合わせた保健指導ができる。

授業計画

【前期】

1. 小児の健康状態の観察、バイタルサインの測定
2. 小児の身体発育状態の観察、身体発育の測定方法と評価
3. 小児の擁護技術① 排泄(おむつの当て方)、衣服の着脱方法
4. " ② 沐浴、清拭
5. " ③ 調乳、口腔ケア
6. " ④ 離乳食の与え方、食物アレルギー、エピペンについて
7. 与薬、応急処置法
8. 罨法(冷罨法、温罨法)、止血法(包帯法)
9. 救急蘇生法
10. 保健計画：「保健だより」の作成①
11. " ②
12. 健康教育：保健指導 媒体作製①
13. " ②
14. " ③
15. 保健指導 発表・評価、まとめ

事前・事後学習の内容

- ・次回授業までに授業内容の予習を行う。

評価の方法・基準

- ・実習態度 (40%)、保健指導 発表内容 (30%) 作製物 (30%)

教科書

- ・『子どもの保健と安全 演習ブック』(ミネルヴァ書房)

備考

医療機関で看護師として従事した者が、乳幼児の健康に関する知識・技術について指導する。

授業科目	幼児への特別な支援			担当者	細川 文子		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育3年	時間数 (単位数)	15 (1)

授業の目的・内容

障害や、障害の傾向を持つ子どもへの早期個別支援が、成長過程の中で障害の固着化や重度化を防ぎ、子ども自身の生き易さにつながる事を理解し、様々な支援方法を修得する。

到達目標

- ・乳幼児期の子どもの行動形態から障害を判別することが難しいという現状を理解し、保育者と子どもの愛着関係を土台に、子どもが発達途上であることに配慮した質の高い障害児支援の実践ができる。

授業計画

【前期】

1. 様々な保育現場の支援実態（児童養護施設、保育所、障害児通所支援事業所）
2. 知的障害の特徴と支援
3. 自閉症スペクトラム障害の特徴と支援
4. 注意欠陥・多動性障害の特徴と支援
5. 学習障害、その他の障害の特徴と支援
6. 発達障害と児童虐待
7. 特別な支援の方法
8. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・障害に関連する国内外の事件やニュースを見たり、日頃から街中で出会う親子の様子などを観察したりして、様々な視点を持っておきましょう。
- ・事前：テキストの次回授業範囲を読み、気になる点を書き出しておきましょう。授業に活用します。
- ・事後：授業内容での気付きについて自分なりの考えも加えてまとめておきましょう。授業で活用します。

評価の方法・基準

- ・筆記試験（70%）授業への取り組み（関心度、マナー等）（15%）事前・事後学習への取り組み（15%）

教科書

- ・『よくわかる障害児保育』（ミネルヴァ書房）

備考

授 業 科 目	保 育 ・ 教 職 実 践 演 習			担 当 者	樋野本 順子		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	保 育 3 年	時 間 数 (単 位 数)	6 0 (2)

授業の目的・内容

現代の保育にかかわる様々な課題から自分でテーマを設定し、考察・検討・発表を行う。各内容について保護者を援助するための技術、方法について学習する。

到達目標

- ・ 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。
- ・ 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。
- ・ 問題解決のための対応、判断方法についての学びを深める。
- ・ 自らの学びを振り返り、保育士としての必要な知識・技能の確認。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション、保育・教職実践演習についての概要
2. 保育者の仕事について課題・問題点①
3. " ②
4. " ③
5. " ④
6. " ⑤
7. 研究発表①
8. " ②
9. 保育・教職実践事例研究①
10. " ②
11. " ③
12. " ④
13. " ⑤
14. " ⑥
15. 前期まとめ

【後期】

16. 保育技術の習得①
17. " ②
18. " ③
19. " ④
20. " ⑤
21. 課題研究①
22. " ②
23. " ③
24. " ④
25. " ⑤
26. " ⑥
27. 研究報告①
28. " ②
29. " ③
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・ 自分のテーマに関する情報収集を行い、問題の所在や現状を把握し、自らの問題解決手法を用いて研究発表への準備を行う。

評価の方法・基準

- ・ 授業への積極的な取り組み・研究発表（70%）、レポート（30%）

教科書

- ・ 『保育・教職実践演習－保育者に求められる実践力－』（建帛社）

備考

授 業 科 目	保育実習 I (施設)			担 当 者	樋野本 順子		実務経験
履 修 方 法	実 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 3 年	時 間 数 (単位数)	90 (2)

実習の目的・内容

児童福祉施設及びその他の社会福祉施設において利用児・利用者に対して適切なかわり合いによって支援をすることのできる専門的知識と技術を習得し、保育士としての資質向上を目指す。

観察実習・参加実習・部分実習・指導実習を行う。

到達目標

- ・実習施設の一日の流れや職務を理解し、主体的に利用児・利用者とかかわる。
- ・職員の職務を見たり、聞いたり、共に行動したりしながら知識・技術を習得する。
- ・施設の社会的役割について理解し、説明できる。
- ・利用児・利用者の抱える問題やニーズを理解する。

授業計画

保育実習（施設）では以下の観点から保育士としての実践力を高める。

1. 児童福祉施設やその他の社会福祉施設の役割と保育士の役割について理解する。
2. 利用児・利用者と家庭支援の理解。
3. 養護内容・方法の理解。
4. 多様な専門機関・専門職との連携の理解。
5. 保育士としての自己課題の明確化。

事前・事後学習の内容

- ・保育実習（施設）事前事後指導を必ず受講し、実習の課題、実習に必要な準備を整える。
- ・実習要綱の内容を理解し、日々の学校生活で実践する。（事前訪問を含む）
- ・実習後、施設への日誌の提出、お礼状、日誌の受け取り、学校への日誌の提出、報告文章作成をおこなう。

評価の方法・基準

- ・実習手続き・実習後の書類に関する状況（30%）、実習中の状況（30%）、実習施設の評価（40%）

※実習中2日以上欠席した場合及び実習施設評価がD評価の場合は再実習。

教科書

- ・『施設実習の手引き』（溪水社）
- ・『知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第二版』（同文書院）
- ・『実習要綱 保育実習（施設）』（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校）

備考

授業科目	保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）			担当者	樋野本 順子		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育3年	時間数 （単位数）	30 （1）

授業の目的・内容

この科目は初めに保育実習（施設）の意義・目的・内容について理解していく。実習前にすべきこと、児童福祉施設の具体的役割の理解、実習記録の書き方、指導計画案の作成、実習後にすべきことを事例に基づいて行っていく。実習終了後、実習の反省、課題などを実習報告会で発表し、レポートにまとめる。

到達目標

- ・ 保育実習（施設）に臨む心構えをつくる。
- ・ 実習日誌の書き方・指導計画等の知識及び技術を身に付ける
- ・ 自己評価を行い、新たな課題及び目標を明確にする。

授業計画

【前期】

1. 施設実習に関する基礎理解と諸注意①
2. " ②
3. " ③
4. 実習記録作成について①
5. " ②
6. 学内実習事前オリエンテーション①
7. " ②
8. " ③
9. " ④
10. 実習後振り返り・実習報告会準備①
11. " ②
12. " ③
13. 実習報告会①
14. " ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・ 教材や・部分指導の準備を行う。
- ・ 児童福祉施設の役割、種類、内容についての事前学習。
- ・ 実習施設における実習目標、課題、学習計画に沿って、実習に向けた準備。
- ・ 実習終了後、報告会準備。

評価の方法・基準

- ・ 授業への積極的参加と実習準備（50%）、報告会準備・報告会（40%）、レポート（10%）

教科書

- ・ 『施設実習の手引き』（溪水社）
- ・ 『新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド第二版』（同文書院）

備考

授 業 科 目	保 育 実 習 Ⅱ			担 当 者	河 地 あ す か		実務経験
履 修 方 法	実 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 3 年	時 間 数 (単 位 数)	9 0 (2)

授業の目的・内容

保育実習Ⅱに参加するものは、保育実習Ⅰ事前事後指導（保育所）・保育実習・保育実習事前事後指導Ⅱを必ず履修しておく必要がある。保育実習Ⅱでは、保育実習での学習内容・反省・課題を明確化し取り組むことを通して、これまで学内で学んできた保育に関する専門的な知識・技術等を保育・教育で実践するための基礎及び応用力・実践力を身に付ける。保育士に求められる保育・教育の専門性と実践力の向上を目指していきたい。

到達目標

- ・ 保育所の役割と機能を理解する。・ 乳幼児の発達の特徴と保育を理解する。
- ・ 既習の学びと保育実習の反省を踏まえ実習に取り組み、学びを深める。
- ・ 保育所保育指針や乳幼児の実態に即した指導案の立案と実践をすることができる。

授業計画

《実習1週目》

- ・ 保育所の役割と機能の理解（環境を通した保育・社会的役割・養護と保育の一体性・総合的な指導・家庭との連携等）①
- ・ 保育士の職務内容の理解①
- ・ 指導案の立案と検討、実践（部分）
- ・ 保育技術の習得（話法・保育展開・環境構成等）
- ・ 乳幼児との適切な関わり方の習得（乳幼児の発達の理解）
- ・ 実習担当者からの指導助言の理解と課題の明確化
- ・ 保育士としての姿勢や態度の習得
- ・ 1週目の学習内容の振り返り反省と自己課題の明確化

《実習2週目》

- ・ 保育所の役割と機能の理解（環境を通した保育・社会的役割・養護と保育の一体性・総合的な指導・家庭との連携）②
- ・ 保育士の職務内容の理解②
- ・ 指導案の立案と検討、実践（部分・半日・全日）
- ・ 保育技術の習得と実践（話法・保育展開・環境構成等）
- ・ 乳幼児との適切な関わり方の習得と実践、工夫（乳幼児の発達の理解）
- ・ 実習担当者からの指導助言の理解と今後の学習課題の明確化
- ・ 保育士としての姿勢や態度の習得と実践
- ・ 実習全体の学習内容の振り返り反省と自己課題の明確化

事前・事後学習の内容

- ・ 教材研究や指導案の立案に積極的に取り組むこと。
- ・ 保育所保育指針及び解説本を熟読し、保育の基本について理解しておくこと。
- ・ 実習中、実習後の学びや反省等は具体的に書き出しておきましょう。

評価の方法・基準

- ・ 実習施設による実習評価を基準とする（80%）、実習日誌の内容、実習事後レポートの内容（20%）
- ・ 実習中に実習生としてふさわしくない行動や2日連続して欠席した場合は不可とする。

教科書

- ・ 『幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き』（溪水社）
- ・ 『知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』（同文書院）
- ・ 『保育所保育指針』（フレーベル館）・『保育所保育指針解説（厚生労働省）』（フレーベル館）

備考

授 業 科 目	保育実習事前事後指導Ⅱ			担 当 者	河地 あすか		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 3 年	時 間 数 (単 位 数)	30 (1)

授業の目的・内容

保育実習（保育所）での学びを受けて、保育士資格取得に必修である保育実習Ⅱの事前事後指導である。保育実習Ⅱに参加する学生は必ず受講しなければならない。事前指導では、保育実習を振り返り保育実習Ⅱに向けて明確な課題をもち意欲的に実習に取り組めるよう指導する。事後指導では、保育実習Ⅱを振り返り、集団討議、合同報告会等を実施し、保育士としての指導援助の在り方、環境の構成、家庭や地域との連携、子育て支援等、専門的な知識・技術の習熟を目指す。

到達目標

- ・保育実習の課題を明確化できる。
- ・保育実習Ⅱの意義と目的を理解できている。
- ・保育実習Ⅱの学びや反省、課題を明確化し、報告をすることができる。

授業計画

【前期】

1. 保育実習の振り返りと反省
2. 保育実習の課題の明確化と保育実習Ⅱの目標
3. 保育実習Ⅱの意義と目的
4. 保育所の役割、機能・保育士の職務内容を理解する
5. 保育士にふさわしい姿勢や態度を理解する
6. 各年齢の発達の特徴の理解と関わり方
7. 実習日誌の書き方
8. 部分実習の内容と方法、指導案立案①
9. " ②
10. 学内オリエンテーション
11. 実習を振り返る①（自己評価と個人面談）
12. " ②（自己課題の明確化）
13. 保育実習・保育実習Ⅱの総括・まとめ
14. 実習報告会①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・教材研究や指導案作成に積極的に取り組むこと。
- ・保育実習での自己課題を明確化し達成のための具体的な実習の取り組みを考察しておくこと。
- ・乳幼児関連のニュースや新聞記事に興味関心をもち保育・教育について理解を深めておくこと。

評価の方法・基準

- ・出席状況（50%）、実習報告（30%）、提出物（20%）

教科書

- ・『幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き』（溪水社）
- ・『保育の基本用語』（わかば社）
- ・『知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』（同文書院）
- ・『保育所保育指針』フレーベル館・『保育所保育指針解説（厚生労働省）』（フレーベル館）

備考

授 業 科 目	教育実習Ⅱ			担 当 者	河地 あすか		実務経験
履 修 方 法	実 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	保 育 3 年	時 間 数 (単位数)	90 (2)

授業の目的・内容

教育実習Ⅱに参加するものは、教育実習事前事後指導Ⅰ・教育実習・教育実習事前事後指導Ⅱを必ず履修しておく必要がある。教育実習Ⅱでは、教育実習での学習内容・反省・課題を明確化し取り組むことを通して、これまで学内で学んできた領域や教職に関する専門的な知識・技術等を保育・教育で実践するための基礎及び応用力・実践力を身に付ける。幼稚園教諭に求められる保育・教育の専門性と実践力の向上を目指していきたい。

到達目標

- ・幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
- ・幼稚園教諭の職務内容、担任の役割の理解ができる。
- ・保育、教育に必要な指導技術を身に付け、様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。

授業計画

《実習1週目》

- ・幼児教育の基本理解（環境を通した教育・総合的な指導・一人ひとりの特性に応じた指導）①
- ・幼稚園教諭の職務内容の理解①
- ・指導案の立案と検討、実践（部分）
- ・保育技術の習得（話法・保育展開・環境構成等）
- ・幼児との適切な関わり方の習得（子ども理解）
- ・実習担当者からの指導助言の理解と課題の明確化
- ・幼稚園教諭としての姿勢や態度の習得
- ・1週目の学習内容の振り返り反省と自己課題の明確化

《実習2週目》

- ・幼児教育の基本理解（環境を通した教育・総合的な指導・一人ひとりの特性に応じた指導）②
- ・幼稚園教諭の職務内容の理解②
- ・指導案の立案と検討、実践（部分・半日・全日）・実習全体の学習内容の振り返り反省と自己課題の明確化
- ・保育技術の習得と実践（話法・保育展開・環境構成等）
- ・幼児との適切な関わり方の習得と実践、工夫（子ども理解）
- ・実習担当者からの指導助言の理解と今後の学習課題の明確化

事前・事後学習の内容

- ・教材研究や指導案の立案に積極的に取り組むこと。
- ・幼稚園教育要領及び解説本を熟読し、幼児教育の基本について理解しておくこと。
- ・実習中、実習後の学びや反省等は具体的に書き出しておきましょう。

評価の方法・基準

- ・実習施設による実習評価を基準とする（80%）、実習日誌の内容、実習事後レポートの内容（20%）
- ・実習中に実習生としてふさわしくない行動や2日連続して欠席した場合は不可とする。

教科書

- ・『幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き』（溪水社）
- ・『知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』（同文書院）
- ・『幼稚園教育要領』（フレーベル館）・『幼稚園教育要領（文部科学省）』（フレーベル館）

備考

授業科目	音楽(実践)			担当者	松本 愛		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	保育3年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

保育・教育現場での適切な指導法、演奏技術の向上とレパートリーを増やすことを目的とする。

また、打楽器の基礎奏法やリズム奏や合奏を実践することでリズム感を養うと共に音の組み合わせによる共鳴感を養う。

ピアノの練習曲(バイエル・ソナチネなど)・子どもの歌などの弾き歌い曲を課題とし、毎週レッスンと小テストを行う。

到達目標

・保育者としてピアノや歌唱の技術をさらに磨き、季節を感じ生活に溶け込む音楽・表現などをレパートリーの中から自由に活かすことで、弾き歌いの実践力・表現力・即興能力といった、保育・教育現場での適切な指導法を習得することを目標とする。

授業計画

【前期】

1. 合奏①(基礎)、小テスト①
2. // ②(練習①)
3. // ③(// ②)
4. // ③(発表)、レッスン①(ソナチネ(自由曲)決め)
5. 小テスト②、レッスン②(ソナチネ(自由曲)・弾き歌い)、歌唱①
6. // ③、 // ③ // 、 // ②
7. // ④、 // ④ // 、 // ③
8. // ⑤、 // ⑤ // 、 // ④
9. // ⑥、 // ⑥ // 、 // ⑤
10. // ⑦、 // ⑦ // 、 // ⑥
11. // ⑧、 // ⑧ // 、 // ⑦
12. // ⑨、 // ⑨ // 、 // ⑧
13. // ⑩、 // ⑩ // 、 // ⑨
14. 復習
15. まとめ、実技試験

【後期】

16. 小テスト⑪、レッスン⑪(ソナチネ(自由曲)・弾き歌い)
17. // ⑫、 // ⑫ //
18. // ⑬、 // ⑬ //
19. // ⑭、 // ⑭ //
20. // ⑮、 // ⑮ //
21. // ⑯、 // ⑯ //
22. // ⑰、 // ⑰ //
23. // ⑱、 // ⑱ //
24. // ⑲、 // ⑲ //
25. // ⑳、 // ⑳ //
26. // ㉑、 // ㉑ //
27. 復習①、レッスン⑫(ソナチネ(自由曲)・弾き歌い)
28. // ㉒、 // ㉓ //
29. // ㉔、 // ㉕ //
30. まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

・自主練習

- ・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習などを繰り返すこと。
- ・ゆっくり丁寧な練習を心がける。

評価の方法・基準

- ・実技試験(課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>)(85%)
- ・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト(15%)

教科書

- ・『保育実用書シリーズ こどものうた 200』(チャイルド社)
- ・『保育実用書シリーズ 続こどものうた 200』(チャイルド社)
- ・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜)
- ・『ソナチネアルバム』(全音楽譜)
- ・『楽しい音楽表現』(圭文社)、プリント配布
- ・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜)

備考

学校現場における音楽教員の経験のある者が、弾き歌いの実践力・即興能力等を習得できるよう指導する。

授 業 科 目	病児保育			担 当 者	樋野本 順子		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	保 育 3 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

一般財団法人 日本病児保育協会認定講座です。

病児保育の実践に必要な専門知識を、体系的に習得することが目的です。

様々な感染症への対応方法の他、子どもの病気に対する基礎的な看病の方法、無理のない遊び方など、病児保育に特化したスキル・ノウハウを学びます。

到達目標

- ・「認定病児保育スペシャリスト」資格取得

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション
2. 病児保育とは何か
3. 病児保育の意義を知ろう
4. あるべき病児保育のかたち
5. 病児保育の遊びについて理解する
6. " " における一日の流れ
7. " " の心理について理解する
8. " " におけるコミュニケーション
9. 感染予防について理解する
10. 代表的な子どもの病気を知ろう
11. 基礎的な看病について理解する
12. リスクマネジメントの基礎を理解する①
13. " " ②
14. 心肺蘇生法・軌道異物の除去
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・毎回の受講内容について予習・復習をおこなう。

評価の方法・基準

- ・各受講内容の試験合格（100％）

教科書

- ・『認定病児保育スペシャリスト 公式テキスト』（英治出版）

備考

資格取得にあたっては修了試験合格及び本校卒業をすることも要件に入ります。

授業科目	指導案実践演習Ⅲ			担当者	河地 あすか		実務経験
							○
履修方法	演習	期 間	前期	学科・学年	保育3年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

指導案実践演習Ⅰ・Ⅱでの学びを基礎に、指導案を立案作成し、実習先において部分実習に取り組み、実践力の獲得と向上に努める。そのために、本演習Ⅲでは、教材研究や様々な保育方法を十分に検討し指導計画を立案すること、保育者として保育を実践すること、振り返りである分析・考察を丁寧に行うことの過程を重視する。その過程を「部分保育研究」としてワークシートに記入し報告することを通して実践力だけではなく、保育者として必要とされる考察力や実践したことを相手に論理的にわかりやすく説明できるスキルを習得する。

到達目標

- ・部分実習の事前準備が丁寧に且つ十分にできる。
- ・保育者として保育を実践する。
- ・部分実習の研究結果を報告できる。

授業計画

【前期】

1. ガイダンス
2. 教材研究・指導案立案①
3. " ②
4. " ③
5. " ④
6. " ⑤
7. 部分実習の分析と考察①
8. " ②
9. " ③
10. " ④
11. " ⑤
12. " ⑥
13. 保育研究報告①
14. " ②
15. " ③

事前・事後学習の内容

- ・教材研究を十分に実施し、保育方法を検討しておくこと。
- ・実習時の保育者からの指導内容や自身の経験、反省、気付き、改善点等、具体的に記録しておくこと。
- ・これまでの実習経験を活かし、参考にすること。

評価の方法・基準

- ・教材研究姿勢と指導案の提出（40%）、ワークシートの提出（30%）、報告内容と姿勢（30%）

教科書

- ・使用しない

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、指導計画の立案・実践方法について指導する。

授業科目	子育て支援Ⅲ			担当者	藤原 久礼		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育3年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

保育士の相談援助技術について、ロールプレイや事例研究を通して実践的に習得する。
 保育所や児童福祉施設における保育相談支援について理解する。
 児童福祉施設における子どもや保護者への支援について理解する

到達目標

- ・保育所や児童福祉施設における相談援助の技術を習得する
- ・事例を通して支援に必要な法律や制度、教育・福祉サービスを含む社会資源の理解を深め、それらを実践的に活用するための方法を検討できる。
- ・児童福祉施設における子どもや保護者への支援事例を通して、さまざまな支援方法について理解する。

授業計画

【後期】

保育所支援の実際

1. 保育に関する保護者に対する指導 ①
2. " ②
3. 保護者支援の内容 ①
4. " ②
5. 保護者支援の方法と技術 ①
6. " ②
7. 保護者のクレーム対応 ③
8. " ④
9. 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス ①
10. " ②

児童福祉施設における支援

11. 事例検討 児童福祉施設での相談支援 ①
12. " ②
13. " ③
14. " ④
15. " ⑤

事前・事後学習の内容

- ・授業内容をふまえ、授業のまとめとして課題レポートの提出をする。
- ・ロールプレイを行うので、保育士や子ども、保護者の状況をしっかりと理解し、演じられるようにすること。
- ・各グループで児童福祉施設における支援事例の紹介を行うため、担当グループは事例を読み込んでおくこと。

評価の方法・基準

- ・レポート提出 (50%)、授業などの取り組み (50%) など総合的に評価する。

教科書

- ・なし。適宜レジュメを配布する。

備考

授 業 科 目	保 育 特 論			担 当 者	樋野本 順子		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	保 育 3 年	時 間 数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

一人ひとり子どもたちの育ちを受け入れ、日々必要に応じた保育を実践していくことのできる保育者となるために、講演や演習を通して保育者の役割について理解を深める。また、研究・発表・反省・省察を通して、これからの保育者として必要な資質、能力を培っていくことを目指す。

到達目標

- ・実習先について理解し、児童福祉施設・幼稚園・こども園について説明できる。
- ・講演や演習を通して実践力を身に付ける。
- ・保育者として求められる資質・能力を理解し、説明できる。

授業計画

【前期】

1. 身だしなみ (保育者として)
2. 障害の理解①
3. " ②
4. 保育所の理解①
5. " ②
6. 乳児に関する保育
7. 1歳以上3歳未満児に関する保育
8. 3歳以上児に関する保育
9. 保育用語
10. 基礎マナー講座
11. 保育者技術①
12. " ②
13. " ③
14. 保育者に求められる資質と能力
15. まとめ

【後期】

16. わらべうた
17. 離乳食・幼児食・食育
18. 幼稚園の理解①
19. " ②
20. 実習生の姿勢と態度
21. 保育技術研究①
22. " ②
23. " ③
24. " ④
25. " ⑤
26. " ⑥
27. 発表①
28. " ②
29. " ③
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・準備物等がある場合は早めに準備し忘れ物のないようにする。
- ・授業後に配布される振り返りシートを記入し提出する。

評価の方法・基準

- ・受講態度・出席状況 (50%)、発表姿勢・内容 (20%)、提出物 (30%)

教科書

- ・適宜、プリントを配布する。

備考

授 業 科 目	就 職 実 務 Ⅲ			担 当 者	樋野本 順子		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	保 育 3 年	時 間 数 (単位数)	30 (2)

授業の目的・内容

福祉関係、教育関係の就職活動の進め方を理解し、就職試験対策を行うことで、就職100%を目指す。

また、これまでの学習を振り返り、保育者として必要とされる保育、福祉、教育の基礎知識、専門的な知識と技術の習得を確認し、就職先で生かしていくために、卒業試験を実施する。

到達目標

- ・方向性を定め、積極的に就職活動に取り組むことができる。
- ・希望する就職先から内定を頂くことができる。
- ・卒業試験に合格する。

授業計画

【通年】

1. オリエンテーション・身だしなみ
2. 就職活動の流れ
3. 履歴書作成
4. 面接練習
5. 保育士・幼稚園・こども園職場説明会
6. 模擬練習（保育技術）①
7. " ②
8. " ③
9. 保育士資格登録手続き
10. 幼稚園教諭免許取得手続き
11. 就職先の理解
12. 卒業試験対策（一般教養・専門科目）①
13. " ②
14. " ③
15. 卒業試験

事前・事後学習の内容

- ・就職年次生であることを意識しながら（言葉遣い・所作・身だしなみ）日常生活を送ること。
- ・保育、教育に関するニュースに関心を持ち、情報収集に努める。

評価の方法・基準

- ・出席状況、受講態度（60%）、提出物（40%）

教科書

- ・使用しない

備考

必要に応じて着用及び準備（実習服、シューズ、スーツ 他）

授 業 科 目	介護実務者研修Ⅱ			担 当 者	藤原 久礼		実務経験
履 修 方 法	講義・演習	期 間	通年	学科・学年	保育3年	時 間 数 (単位数)	230 (7)

授業の目的・内容

介護職員に求められる知識・技術を習得し、介護福祉士国家試験の受験資格を得るための介護実務者研修の修了資格の取得を目指す。

介護領域のうち、医療的ケアの領域、人間と社会の領域、こころとからだのしくみの領域を学ぶ。
医療的ケア演習はスクーリングによる授業を行う。

到達目標

- ・人間の尊厳と自立について理解できる。
- ・介護保険制度・社会保障制度・社会福祉サービスについて理解する。
- ・利用者の発達と老化の原因と特性が理解できる。
- ・認知症についての理解ができ、高齢者の支援に活用できる。
- ・障害についての理解ができ、障害者の支援に活用できる。
- ・心理・精神の理論が理解でき、利用者の支援に活用できる。
- ・人間のからだとこころのしくみを理解し、利用者の心身特性に応じた支援ができる。
- ・喀痰吸引や経管栄養の知識と技術を習得し、手順に従って手技ができる。

授業計画

- 1～8. 医療的ケア
- 9～15. 医療的ケア演習（スクーリング）
- 16～18. 人間の尊厳と自立
- 18～20. 社会の理解Ⅰ
- 21～36. 社会の理解Ⅱ
- 37～41. 発達と老化の理解Ⅰ
- 42～51. " Ⅱ
- 51～55. 認知症の理解Ⅰ
- 56～65. " Ⅱ
- 66～70. 障害の理解Ⅰ
- 71～80. " Ⅱ
- 81～90. こころとからだのしくみⅠ
- 91～115. " Ⅱ

事前・事後学習の内容

- ・各教科目の教科書をよく読み、内容をよく理解し演習問題と
- ・各教科目の演習問題を解き内容を理解し、間違った箇所は教科書を見直し何度も演習問題に取り組む
- ・スクーリングで学んだ手技を何度も練習しマスターする。

評価の方法・基準

- ・授業への取り組み（25%）、各科目の試験（25%）、スクーリングによる実技試験（50%）による総合評価。
- ・医療的ケア演習は、口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養の5類型あり、それぞれの類型で5回の実技試験に合格しなければならない。
- ・以上の総合評価で、介護実務者研修Ⅱの科目評価を行う。

教科書

- ・『介護職員等実務者研修（450時間研修）テキスト 第1巻～第5巻』（中央法規）

備考

授業6の医療的ケアを修了していなければ、医療的ケア演習を受講することはできない。

スクーリングの遅刻は認めない。医療的ケアのスクーリングは1日目を受講後、2日目を受講しなければならない。